

# 授業計画

平成 28 年度

# *Syllabus 2016*

---

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科

# 兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の十七条憲法に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

## 兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



### アドミッションポリシー (AP)

#### 入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

### カリキュラムポリシー (CP)

#### 教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

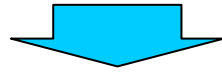
### ディプロマポリシー (DP)

#### 学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

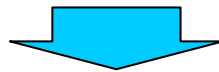


兵庫大学

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

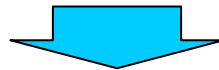


現代ビジネス学部

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)



現代ビジネス学科

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

みなさんは、

APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

DPに定められた能力を身につけて卒業します。

## 現代ビジネス学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
現代ビジネス学部のディプロマポリシーを理解し、自らが暮らす地域社会や経済に関する問題に関心を持ち、広い視野に立ってビジネスの視点から諸課題について考察する意欲のある学生を受け入れます。	現代ビジネス学部では、現実の経済で生じる様々な変化や地域社会の諸問題について、ビジネスの視点から課題を発見・分析し、解決に向けて考察できる確かな力を身につけることを目指してカリキュラムを編成します。	現代ビジネス学部では、豊かな教養と国際感覚を身につけ、経済・ビジネスの分野において学んだ知識や技術を活用し、地域社会に貢献できる力を身につけた人に、学士の学位を授与します。



### 3つの方針（ポリシー）について

アドミッション  
ポリシー

・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。

カリキュラム  
ポリシー

・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。

ディプロマ  
ポリシー

・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

## 現代ビジネス学科ポリシー

現代ビジネス学科は、学部ポリシーに基づき、絶え間なく変化する時代や社会に対する洞察力を鍛えるとともに、経済学・経営学の専門知識を身につけ、経済・社会の諸問題を積極的に発見・分析・解決し、地域・経済の発展の原動力となる人を育てることを目指します。

### アドミッション ポリシー

・現代ビジネス学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. グローバルな視点に立った学びを通じて、自らの視野を広げたいと考える人
2. 経済・社会の諸問題について、ビジネスという視点から考察し社会貢献したいと考える人
3. 他者との協働を通じて自己成長を図りたいという意識のある人

### カリキュラム ポリシー

・現代ビジネス学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 自らと社会とのかかわり、自ら学ぶことや働くことの意味について理解を深め、主体的に学ぶ力を養う
2. 他者と協働して課題の発見・分析・解決に向けて取り組む力を養う
3. グローバル時代に求められる多様なものの見方や考え方、情報発信力、コミュニケーション力を身につける
4. 経済学の理論と分析方法に関する専門知識を学び、地域の諸問題について深く考察できる力を身につける
5. 経済・社会での情報化に対応できる知識と技術、企業経営に関する専門知識を学び、地域社会で活用できる力を身につける

### ディプロマ ポリシー

・現代ビジネス学部のポリシーに基づき、卒業までに次の力を身につけた人に学士(現代ビジネス)の学位を授与します。

1. 自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力
2. 地域・社会の諸問題に関心をもち、経済学・経営学の専門知識を活かして課題を発見・分析・解決できる力
3. グローバル化に伴う経済・社会の動きに対応し、修得した知識や技術を活用して地域社会に貢献できる力

#### 「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

現代ビジネス学科カリキュラムマップ【共通教育科目】(平成28年度入学者)

授業科目の区分		授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○							
			兵庫大学ディプロマポリシー							
			1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を活用し、生涯にわたって活用できる力							
			A	B	C	D	E	F	G	
			コミュニケーション力	情報リテラシー (情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力	
共通教育科目	建学の精神	宗教と人生			○	◎	○			
		仏教と現代社会			◎	○	○			
	コミュニケーション	日本語(読解と表現)	◎				○		○	
		英語	◎		○		○			
		実用英語Ⅰ	◎				○			
		実用英語Ⅱ	◎				○			
		実用英語Ⅲ	◎				○		○	
		中国語(初級)	◎				○			
		中国語(中級)	◎				○			
		韓国語(初級)	◎				○			
		韓国語(中級)	◎				○			
	コンピュータ演習	○	◎						○	
	国際理解	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○			
		国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○			
		比較文化論			◎	○	○			
		歴史と文化	歴史学			○	○	◎		
	文学				◎	○	○			
	芸術				◎		○			
	色彩とデザイン			○	○		◎		○	
	地域に学ぶ	地域文化論			○	○	◎			
		現代社会を読み解く	哲学			◎	○			○
			法と社会			○		◎		○
			日本国憲法			○		◎		○
			人権の歴史			○	◎	○		
			政治学			◎		○		○
			社会学			○		◎		○
			経済学			◎		○		○
		自然と科学	生命倫理学			○			◎	
			心理学			◎	○			○
	化学				○			◎		
生物学				○			◎			
くらしと健康	食と健康	○				○	◎			
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○		
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎			
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎			
キャリアデザイン	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○		

現代ビジネス学科カリキュラムマップ(平成28年度入学者)

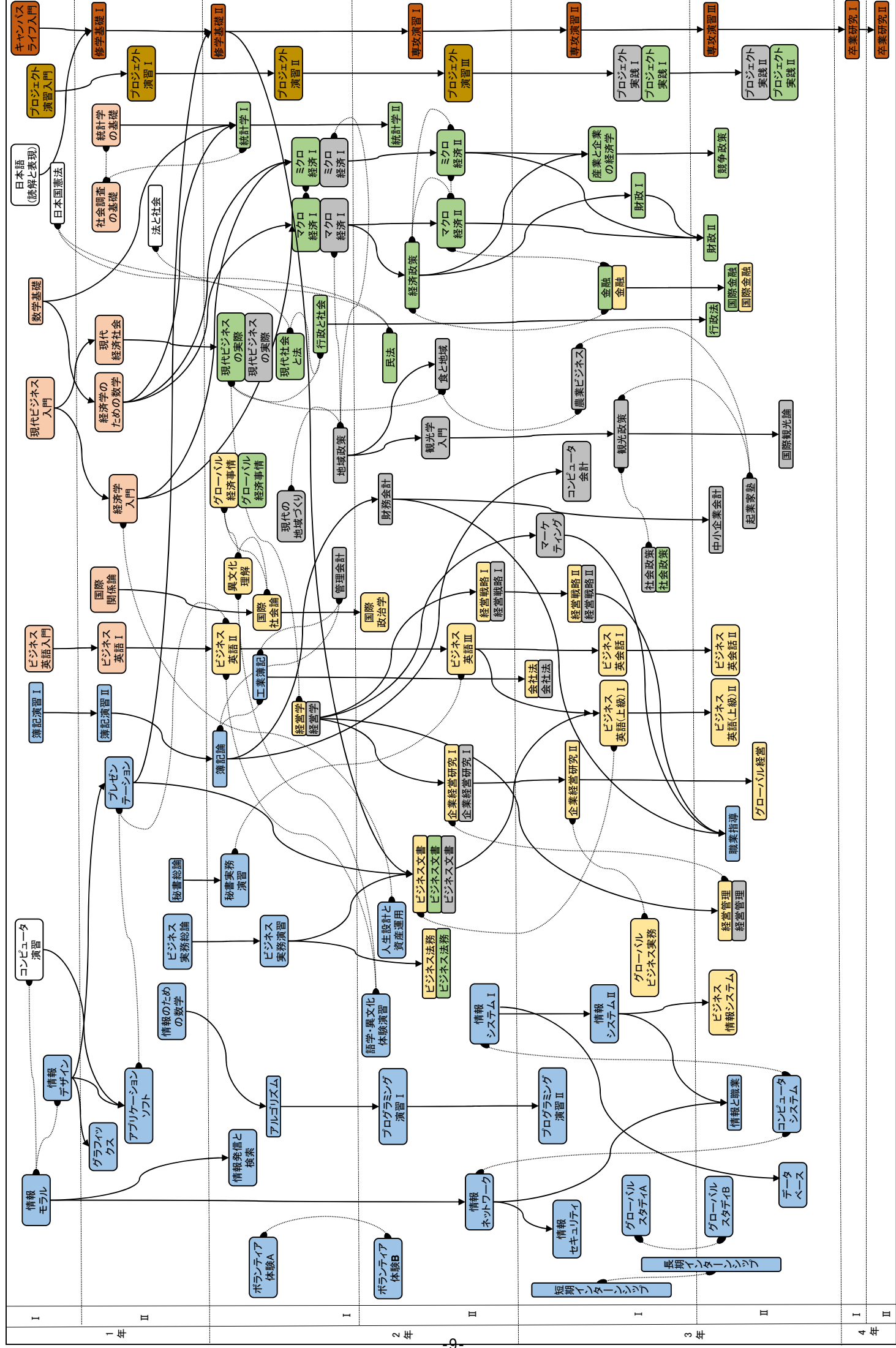
【現代ビジネス学部ディプロマポリシー】豊かな教養と国際感覚を身につけ、経済・ビジネスの分野において学んだ知識や技術を活用し、地域社会に貢献できる力を身につけた人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		現代ビジネス学科ディプロマポリシー														
		1					2					3				
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					地域・社会の諸問題に関心をもち、経済学・経営学の専門知識を活かして課題を発見・分析・解決できる力					グローバル化に伴う経済・社会の動きに対応し、修得した知識や技術を活用して地域社会に貢献できる力				
	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
	多様なものの見方・考え方	主体的に学び考える力	コミュニケーション力	国際感覚・異文化理解力	チームワーク力	経済学的思考力	論理的思考力	ビジネス基礎力	情報処理能力	課題発見・分析力・解決力	経済・社会の動きを見る力	グローバル・コミュニケーション力	キャリア形成力	創造力	計画力・実行力	
専門教育科目	プレゼンテーション			◎				○	○	○			○			
	アプリケーションソフト							○	○	◎	○					
	ボランティア体験A		○			○					○		○		◎	
	ボランティア体験B		○			○					○		○		◎	
	語学・異文化体験演習	○		○	◎								○	○		
	短期インターンシップ		○	○						○				◎	○	
	長期インターンシップ		○	○						○				◎	○	
	簿記演習Ⅰ							◎	○			○		○		
	簿記演習Ⅱ							○	◎			○		○		
	工業簿記								○	◎		○		○		
	簿記論								◎	○		○		○		
	情報モラル	○		○					○			◎				
	情報デザイン	◎							○	○	○					
	情報のための数学		○					◎		○	○	○				
	グラフィックス		◎						○	○					○	
	アルゴリズム	○	○					◎		○	○					
	情報発信と検索	○	○							◎					○	
	情報システムⅠ		○			○				◎		○				
	情報システムⅡ		○			◎				○		○				
	情報ネットワーク								○	◎	○					
	情報セキュリティ	○							◎		○	○				
	プログラミング演習Ⅰ		○						◎		○	○				
	プログラミング演習Ⅱ		○						◎		○	○				
	コンピュータシステム								○		◎			○		
	情報と職業	○										◎		○		
	データベース	○							○		○	◎				
	ビジネス実務総論	○	○								◎	○		○		
	ビジネス実務演習	○	○	◎							○					
	人生設計と資産運用	○						◎				○		○		
	秘書総論	○									◎	○		○		
	秘書実務演習			○		◎				○	○			○		
	グローバルスタディA	○		○	◎						○		○			
	グローバルスタディB	○		○	◎						○		○			
	職業指導	○										○		◎		
	実践科目	プロジェクト演習入門	○		◎		○			○	○					
		プロジェクト演習Ⅰ	○		○		◎				○				○	
プロジェクト演習Ⅱ				○		○				◎				○	○	
プロジェクト演習Ⅲ						○				○	○			○	◎	
演習科目	キャンパスライフ入門		◎	○					○	○			○			
	修学基礎Ⅰ		○	○					○	◎			○			
	修学基礎Ⅱ		○	○					○				◎			
	専攻演習Ⅰ		○	○					○		○					
	専攻演習Ⅱ		○	○					○		○					
	専攻演習Ⅲ		○	○					○		○					
	卒業研究Ⅰ		○	○					○		○					
	卒業研究Ⅱ		○	○					○		○					
専攻基礎科目	現代ビジネス入門	○			○			○		○	◎					
	経済学入門	○					◎	○			○					
	統計学の基礎	○						○		◎	○					
	数学基礎		○					◎	○							
	経済学のための数学		○				○	◎	○							
	ビジネス英語入門		○	◎						○		○				
	ビジネス英語Ⅰ		○	◎						○		○				
	現代経済社会	○					○				○	◎		○		
	国際関係論	○			◎			○			○		○			
	社会調査の基礎	○						○		◎	○	○				

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○													
		現代ビジネス学科ディプロマポリシー													
		1					2					3			
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					地域・社会の諸問題に関心をもち、経済学・経営学の専門知識を活かして課題を発見・分析・解決できる力					グローバル化に伴う経済・社会の動きに対応し、修得した知識や技術を活用して地域社会に貢献できる力			
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
多様なものの見方・考え方	主体的に学び考える力	コミュニケーション力	国際感覚・異文化理解力	チームワーク力	経済学的思考力	論理的思考力	ビジネス基礎力	情報処理能力	課題発見・分析力・解決力	経済・社会の動きを見る力	グローバル・コミュニケーション力	キャリア形成力	創造力	計画力・実行力	
専攻科目	経営学		○					◎			○		○		
	グローバル経済事情	○			○					○	◎	○			
	ミクロ経済Ⅰ		○				◎	○			○				
	マクロ経済Ⅰ		○				◎	○			○				
	プロジェクト実践Ⅰ			○		○					○			◎	
	プロジェクト実践Ⅱ			○		○					○			○	
	現代ビジネスの実際	○					○		○		○		◎		
	経営戦略Ⅰ	○						○			○	◎			
	経営戦略Ⅱ				○			○			◎			○	
	企業経営研究Ⅰ	○							○	○			◎		
	ビジネス法務								○	◎			○		
	ビジネス文書			○					○	◎	○		○		
	金融						◎	○			○				
	国際金融				○		○	○			◎				
	社会政策	○					◎	○			○				
	会社法							◎	○			○			
	経営管理	○							◎		○	○			
	異文化理解	○			◎				○			○	○		
	ビジネス英語Ⅱ		○	◎					○				○		
	ビジネス英語Ⅲ		○	◎					○				○		
	ビジネス英会話Ⅰ			○	○				○			○	◎		
	ビジネス英会話Ⅱ			○	○				○			○	◎		
	ビジネス英語(上級)Ⅰ			○	○				○			◎	○		
	ビジネス英語(上級)Ⅱ			○	○				○			◎	○		
	国際社会論	○			◎						○	○	○		
	国際政治学	○			○						○	◎	○		
	グローバルビジネス実務			○							○		◎	○	
	企業経営研究Ⅱ	○							○	○		○	◎		
	グローバル経営				○		○				○	◎		○	
	ビジネス情報システム							○	○	◎				○	
	地域政策	○					○					◎		○	
	現代の地域づくり				○		○					◎		○	
	管理会計								○	◎	○				
	財務会計								○	◎	○				
	食と地域	○	○				○				◎	○			
	農業ビジネス		○								○	○		◎	
	観光学入門	○			○		○				◎				
	観光政策							○			◎		○	○	
	国際観光論	○			◎							○			
	コンピュータ会計								○	○	◎				
中小企業会計								○	◎			○			
マーケティング	○				○					◎			○		
起業家塾	○				○							◎	○		
ミクロ経済Ⅱ		○				◎	○			○					
マクロ経済Ⅱ		○				◎	○			○	○				
統計学Ⅰ	◎							○	○						
統計学Ⅱ	○								◎		○				
行政と社会	○										◎		○		
現代社会と法	○							○	○		◎				
民法		○						◎	○						
経済政策	○					◎				○			○		
産業と企業の経済学	○					◎	○								
競争政策	○			○		◎	○				◎				
財政Ⅰ						○	○				◎				
財政Ⅱ						○	○			◎	○				
行政法		○					◎	○							



現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 カリキュラムツアー



基礎 教養  
キャリア 基礎  
プロジェクト 実践  
専門 基礎  
演習  
公共 政策  
地域 ビジネス  
グローバル ビジネス

科目の前後関係  
→ 関連の強い科目

卒業研究 I  
卒業研究 II

# シラバスの見方

## 「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1				2				3						
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力				経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりの働きかけ、ともに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力						
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5

**科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期**：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

## 《シラバス例》

**授業の概要**：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

**授業の到達目標**：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

**成績評価の方法**：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

**授業計画**：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

**テキスト**：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。  
**参考図書**：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

**授業時間外学習**：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

**備考**：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

**「カリキュラムマップ」**とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

## 授業科目のナンバリングについて

### <ナンバリングとは？>

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

### <ナンバリングの見方>

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。そのナンバーは次の基準等により設定しています。

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

詳細①：学科

B	現代ビジネス学科
---	----------

詳細②③④：科目の位置づけ（専門教育科目）

②		③		④	
C	キャリア基盤科目	I	情報系	L	講義
P	プロジェクト実践科目	B	ビジネス系	S	演習
S	演習科目	T	その他		
I	専攻基礎科目	P	プロジェクト実践科目		
A	専攻専修科目	S	演習科目		
		I	専攻基礎科目		
		O	共通専攻科目		
		G	グローバルビジネス専攻科目		
		R	地域ビジネス専攻科目		
		P	公共政策専攻科目		

詳細②③④：科目の位置づけ（共通教育科目）

② ③			④	
F	O	建学の精神	L	講義
C	O	コミュニケーション	S	演習
I	N	国際理解	P	実技
H	I	歴史と文化		
L	O	地域に学ぶ		
S	O	現代社会を読み解く		
N	A	自然と科学		
L	I	くらしと健康		
C	A	キャリアデザイン		

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	コース必修

詳細⑥：学年（レベル）

1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

詳細⑦：通し番号

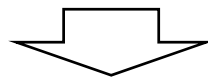
001～
------

（教職に関する科目）

詳細	学科	科目の位置づけ				免許必選の別		学年レベル		通し番号			
	①	②	③		④	⑤		⑥		⑦			
ナンバー	B E N H K S	T	教職科目	A	L	全学科共通	4	必修	1	1年相当	001～		
				I	N							情報	
				P	U	公民			5	選択		2	2年相当
				A	C	商業							
				E	I	栄養			4	4年相当			
				H	H	保健							
				Y	O	養護			S	W		福祉	
				S	W	福祉							

例えば、「プロジェクト演習入門」という科目には、<BPPS11001>というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科 → 現代ビジネス学科「B」
詳細②：科目の位置づけ → プロジェクト実践科目「P」
詳細③：科目の位置づけ → プロジェクト実践科目「P」
詳細④：科目の位置づけ → 演習科目「S」
詳細⑤：履修区分 → 必修科目「1」
詳細⑥：学年レベル → 1年生相当「1」
詳細⑦：通し番号 → 通し番号「001」



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
詳細	現代ビジネス学科	プロジェクト実践科目	プロジェクト実践科目	演習科目	必修科目	1年生相当	通し番号
ナンバー	B	P	P	S	1	1	001

# 現代ビジネス学部現代ビジネス学科

## 【卒業要件単位数】

### ■平成 28 (2016) 年度入学生

科目区分			卒業必要単位	内必修単位と科目数	
共通教育科目			24 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	キャリア 基盤科目	グローバルビジネス 専攻	12 単位	8 単位	3 科目
		地域ビジネス専攻		6 単位	3 科目
		公共政策専攻		6 単位	3 科目
	プロジェクト実践科目		8 単位	8 単位	4 科目
	演習科目		16 単位	16 単位	8 科目
	専攻基礎科目		12 単位	6 単位	3 科目
	専攻専修 科目	共通専攻科目	16 単位	16 単位	8 科目
		グローバルビジネス 専攻	選択した専攻の専攻 科目から 16 単位	10 単位	5 科目
		地域ビジネス専攻		12 単位	6 科目
		公共政策専攻		12 単位	6 科目
キャリア基盤科目、専攻基礎科目		20 単位	—	—	
合 計			124 単位	—	—



平成 28（2016）年度入学者

共通教育科目

カリキュラム年次配当表

現代ビジネス学科 平成28年度（2016年度）入学対象  
 （ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授 業 の 目 録	業 科 目 の 名 称	ナンバリング	授 業 方 法	単 位 数	教員免許関係		学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ペー ジ		
					必 修	選 択	1年		2年		3年		4年					
							I	II	I	II	I	II	I	II				
共 通 教 育 科 目	建学の精神 宗教と人生	BFOL11001	講義	2		○	△	2									(本多 彩)	18
	仏教と現代社会	BFOL21002	講義	2					②		②		②		②		(本多 彩)	19
	日本語（読解と表現）	BCOS11001	演習	2				2									[野田 直恵]・[辻本 恭子]	20
	英語	BCOS11002	演習	2		○	△	2									笹平 康弘・澤山 明宏	21
	英語	BCOS11002	演習	2		○	△	2									[廣間 準一]	22
	実用英語 I	BCOS21003	演習	2					②		②		②		②		[松盛 美紀子]	23
	実用英語 I	BCOS21003	演習	2					②		②		②		②		(Michael. H. FOX)	24
	実用英語 I	BCOS21003	演習	2					②		②		②		②		笹平 康弘	25
	実用英語 II	BCOS21004	演習	2						②		②		②				
	実用英語 III	BCOS22005	演習	2							②		②		②			
	中国語（初級）	BCOS21006	演習	2				②		②		②		②			[佟 曉寧]	26
	中国語（中級）	BCOS21007	演習	2				②		②		②		②			[佟 曉寧]	27
	韓国語（初級）	BCOS21008	演習	2				②		②		②		②			[高 秀美]	28
	韓国語（初級）	BCOS21008	演習	2				②		②		②		②			李 良姫	29
	韓国語（中級）	BCOS21009	演習	2				②		②		②		②			[高 秀美]	30
	韓国語（中級）	BCOS21009	演習	2				②		②		②		②			李 良姫	31
コンピュータ演習	BCOS11010	演習	2		○	△	2									榎木 浩	32	
国際理解	国際理解と宗教 I（キリスト教）	BINL21001	講義	2				②		②		②		②			[根川 幸男]	33
	国際理解と宗教 II（イスラム教）	BINL21002	講義	2				②		②		②		②			[重親 知左子]	34
	比較文化論	BINL21004	講義	2				②		②		②		②			(本多 彩)	35
	歴史と文化	歴史学	BHIL21001	講義	2				②		②		②		②			(金子 哲)
文学		BHIL21002	講義	2				②		②		②		②				
芸術		BHIL21003	講義	2				②		②		②		②			[岩見 健二]	37
色彩とデザイン		BHIL21004	講義	2				②		②		②		②			(稲富 恭)	38
地域文化論	BL0L21001	講義	2				②		②		②		②			(金子 哲)	39	
現代社会を読み解く	哲学	BSOL21001	講義	2				②		②		②		②			[三浦 摩美]	40
	法と社会	BSOL21002	講義	2				②		②		②		②			[豊福 一]	41
	日本国憲法	BSOL21003	講義	2		○	△	②		②		②		②			[笹田 哲男]	42
	人権の歴史	BSOL21004	講義	2				②		②		②		②			[岩本 智依]	43
	政治学	BSOL21005	講義	2				②		②		②		②			(斎藤 正寿)	44
	社会学	BSOL21006	講義	2				②		②		②		②			(吉原 恵子)	45
	経済学	BSOL21007	講義	2		○	△	②		②		②		②			(石原 敬子)	46
自然と科学	生命倫理学	BNAL21001	講義	2				②		②		②		②			[本多 真]	47
	心理学	BNAL21002	講義	2				②		②		②		②			(北島 律之)	48
	化学	BNAL21003	講義	2				②		②		②		②			[阿部 真幸]	49
	生物学	BNAL21004	講義	2				②		②		②		②			(佐藤 隆)	50



授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	ナンバリング	授業 方法	単位数	教員免許関係	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ページ	
						1年		2年		3年		4年				
						必修	選択	公民	商業	I	II	I	II			I
共 通 教 育 科 目	食と健康	BLIL21001	講義	2				②		②		②		②	(嶋津 裕子)	51
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	BLIL21002	講義	2	○	△			②		②		②	②	(三宅 一郎)	52
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	BLIL21002	講義	2	○	△			②		②		②	②	(矢野 琢也)	53
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	BLIS21003	演習	2					②		②		②	②	(三宅-)・(徳田)・(樺本)・(矢野)	54
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	BLIS21004	演習	2					②		②		②	②	(三宅-)・(徳田)・(樺本)・(矢野)	55
ア キ ン デ ザ リ	私のためのキャリア設計	BCAL21001	講義	2				②		②		②	②	[三上 嘉代子]	56	

○は高等学校教諭一種免許状(公民)必修科目、●は高等学校一種免許状(公民)選択科目

△は高等学校教諭一種免許状(商業)必修科目、●は高等学校一種免許状(商業)選択科目

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	BFOL11001
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

兵庫大学「建学の精神」と仏教についての理解を深める。また、宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・兵庫大学の「建学の精神」への理解を深め、兵庫大学の学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約25%  
 小テスト・レポート 約25%  
 定期テスト 約50%  
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
10	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
11	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
12	日本の仏教を知る①	身近にある日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神と関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
13	日本の仏教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
14	建学の精神③	兵庫大学の歴史と建学の精神について学ぶ
15	建学の精神④	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加を推奨する。  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 参加を強く推奨する。  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。  
 仏教の本を読んでみよう。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	BFOL21002	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="checkbox"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 <input type="checkbox"/> 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につながるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える  
 ※現代仏教についての理解をめざす  
 ※仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす  
 ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約40%  
 期末プロジェクト 約30%  
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の復習が必要となるがそれも「受講態度」として評価する。

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説①	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説②	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教①	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教①	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教②	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教③	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	BCOS11001		
担当者氏名	野田 直恵、辻本 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれども、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語 I・II、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

科目名	英語	科目ナンバリング	BCOS11002
担当者氏名	笹平 康弘、澤山 明宏		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語コミュニケーションの真髄である「できる・できない」に関わらず、英語で発信すること大切さを理解し、その基礎を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro A」  
 (センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4779-4

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」について、日常語500語程度を使って次のことができるようになる：  
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；  
 2) 話す：身の回りの出来事（自己紹介、家族、興味・関心事など）について意見交換できる；  
 3) 読む・書く：日常的な話題の英文を読んで理解し、書くことができる

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間で会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

成績評価は、日頃の学習の積み重ねを重視し、次の項目で評価する：  
 1) 授業参加 20%  
 2) 課題 30%  
 3) 復習テスト 20%  
 4) 発表 30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1: Introduction	A:自己紹介、クラスメートへのインタビューなどをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
2	Unit 1: Introduction	B:友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
3	Unit 2: Countries	A:世界の国々。旅などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
4	Unit 2: Countries	B:世界の様々な都市をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に重点を置いて応用する
5	Unit 3: Possessions	A:様々な贈り物の習慣などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
6	Unit 3: Possessions	B:自分の持ち物をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 1からUnit 3までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 3で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 4: Activities	A:大学生活などの日常生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
9	Unit 4: Activities	B:大学での学び(科目、クラスなど)をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 5: Food	A:食生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
11	Unit 5: Food	B:健康と食事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 6: Relationships	A:家族の人間関係をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに応用する
13	Unit 6: Relationships	B:結婚などの人間関係をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Review Quiz & Presentation	1) Unit 4からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 4からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation & General Review	1) 前回はじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	英語	科目ナンバリング	BCOS11002		
担当者氏名	廣間 準一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

昨今、急速なグローバル化の拡大は、最低限必要とされる英語でのコミュニケーション力の必要性が求められている。当授業は受験英語ではなく、自然に英語に親しみ、楽しみながら話せる英語を身に付ける授業とする。

《テキスト》

My First Trip Key Phrases for Traveling Abroad Tae Kudo センゲージラーニング株式会社

《参考図書》

各授業毎に適宜プリントを配布予定。上記テキストに加え、色々なケーススタディを実施する。

《授業の到達目標》

英語でコミュニケーションする為の基礎(土台)をつくることを目標とし、日常生活の中で出会う場面を想定し、話せる英語を目的とする。また国際理解と英語でのコミュニケーション力の上達も目指すものとする。

《授業時間外学習》

NHKのラジオ、TVの英会話を活用する方法を授業中に指導予定。

《成績評価の方法》

期中試験:20% 授業態度・積極性:20% 期末試験:60%とする。

《備考》

①積極的に授業に参加し積極的取りくみを重視 ②授業は英語でやります ③個人、ペアワーク、チームでの作業、自主的な発表

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Intraduction	授業の説明、授業の進め方、自己紹介、評価説明等
2	Unit 1: On the Plane	想定場面/機内・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
3	Unit 2: At the Currency Exchange	想定場面/両替所・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
4	Unit 3: At the Hotek(1)	想定場面/ホテル・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
5	Unit 4: At the Hotek(2)	想定場面/ホテル・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
6	Unit 5: On the train/Bus	想定場面/電車・バス・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
7	Unit 6: Sightseeing(1)	想定場面/観光(1)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
8	Unit 1-6: の復習	ユニット1~6までの復習
9	Unit 7: Shopping(1)	想定場面/買い物(1)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
10	Unit 8: Shopping(2)	想定場面/買い物(2)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
11	Unit 9: At the Post Office	想定場面/郵便局・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
12	Unit 10: Sightseeing(2)	想定場面/観光(2)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
13	Unit 11: At the Restaurant	想定場面/レストラン・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
14	Unit 12: At the Hospital/Pharmacy	想定場面/病院・薬局・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
15	Unit 13: Unit 7-12の復習	ユニット7-12の復習

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	BCOS21003
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』(桐原書店、2015年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	BCOS21003
担当者氏名	Michael. H. FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切的な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	臭味・興味を述べる
3	Geography	地理学を語る
4	Weather	気候や天気を述べる
5	Everyday Activities	日常活動を喋る
6	Life Experiences	人生の主な体験を語る
7	School Subjects	学内の教科・科目について語る
8	At School	大学にて。。話し合い
9	Phone Messages	電話で英語を
10	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
11	Wishes	将来の希望
12	Opinions	意見を述べる事
13	Getting Away	海外へ旅行
14	Talking About Sports	暇とスポーツ活動
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価



科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	BCOS21003
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

## 《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

## 《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combp Split B」(セーグージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

## 《参考図書》

なし

## 《授業の到達目標》

日常語1000語程度を使って次のことができるようになる：  
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；  
 2) 話す：身の回りの出来事(日課、人間関係、仕事など)について意見交換できる；  
 3) 読む：読んだ内容について話し合える；  
 4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとまった英文が書ける

## 《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間で会話練習をして、その日の内容をマスターする

## 《成績評価の方法》

日頃の学習の積み重ねを重視し、次の項目で評価する：

- |          |     |
|----------|-----|
| 1) 授業参加  | 20% |
| 2) 課題    | 30% |
| 3) 復習テスト | 20% |
| 4) 発表    | 30% |

## 《備考》

基礎教「英語」で上記テキストの完全版(Unit 1-Unit 12)を購入している学生は、新たにテキストを購入する必要はない

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 7: Time	A: 日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
2	Unit 7: Time	B: 週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
3	unit 8: Special Occasions	A: 休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
4	unit 8: Special Occasions	B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ
5	Unit 9: Come Together	A: 休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
6	Unit 9: Come Together	B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 10: Home	A: 休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
9	Unit 10: Home	B: ホーム・デザインをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
10	Unit 11: Clothing	A: 衣服、買い物をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
11	Unit 11: Clothing	B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
12	Unit 12: Jobs	A: アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
13	Unit 12: Jobs	B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
14	Review Quiz& Presentation	1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation and General Review	1) 前回はじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	BCOS21006
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

## 《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

## 《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

## 《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

## 《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

## 《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

## 《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

## 《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	BCOS21007
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

## 《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

## 《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

## 《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

## 《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

## 《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

## 《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

## 《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	BCOS21008		
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

## 《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

## 《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

## 《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

## 《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』  
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

## 《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
『パスポート朝鮮語小事典』  
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』  
木内 明著、国書刊行会、2004年

## 《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

## 《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム（子音＋母音の後に来る子音、支えると意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니다体）、～は（助詞）について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요体）、～が（助詞）について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も（助詞）について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に（助詞）について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で（場所＋에서）を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	BCOS21008
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前回到学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	NNAS21025		
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』  
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
 『パスポート朝鮮語小事典』  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』  
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	BCOS21009
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前回到学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	BCOS11010
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 情報処理能力 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）		

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術を学習します。また、情報化社会の基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際して、その利便性や危険性など情報化社会で必要不可欠な「情報倫理」などの知識も修得します。

《テキスト》

毎回授業で資料を配布します。  
資料は事前に閲覧できます。

《参考図書》

必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

- (1) 情報共有や情報伝達のための電子メールが活用できる。
- (2) Webブラウザを使った検索等の操作ができ、情報収集ができる。
- (3) 情報倫理に従いコンピュータネットワークで行動できる。
- (4) レポート作成に用いる文書作成ソフト、表計算ソフト、発表のためのプレゼンテーションソフトの各操作が行え、活用できる。

《授業時間外学習》

授業で配付する資料は期終了まで自由に閲覧できるため、事前事後に配付資料を熟読し理解を深めて下さい。課題作成は授業時間内を基本としますが、不足分は時間外学習で作成してください。

《成績評価の方法》

課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

《備考》

道具としてのコンピュータをうまく使いこなせ、生活の一部であるネットワークでモラルをもって行動できることを望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の内容説明、計算機実習室利用のための手続きと初期設定（パソコン、電子メール、e-ラーニングなど）
2	Windows操作と電子メールの活用	Windows端末の基礎操作、電子メールの送受信、メールの本文やマナー
3	Webとネットサービスの活用(1)	Webブラウザの操作方法、WebページとHTML、WebサーバーとHTTP
4	Webとネットサービスの活用(2)	検索サイトを使った情報収集
5	情報倫理(1)	情報倫理と情報セキュリティ 事例による学習
6	情報倫理(2)	情報倫理に従ったネットワークでの行動 事例による学習
7	情報の利活用：文書作成(1)	文書作成ソフト（MS Word）の基本操作
8	情報の利活用：文書作成(2)	ビジネス文書の作成 作成するレポートのテーマ（授業で指示）についての調査
9	情報の利活用：文書作成(3)	レポートの作成（完成） レポート提出
10	情報の利活用：表計算(1)	表計算ソフト（MS Excel）の基本操作、編集操作
11	情報の利活用：表計算(2)	作成する表やグラフの元となる統計データの探索 用意した統計データを用いて、表とグラフを作成
12	情報の利活用：表計算(3)	用意した統計データを用いて、表とグラフを作成（完成）・提出
13	情報の利活用：プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションソフト（MS PowerPoint）の基本操作 プレゼンテーション企画シートの作成
14	情報の利活用：プレゼンテーション(2)	企画シートの見直し 企画シートをもとにプレゼンテーション資料を作成
15	情報の利活用：プレゼンテーション(3)	企画シートをもとにプレゼンテーション資料を作成（完成）・提出



科目名	国際理解と宗教 I (キリスト教)		科目ナンバリング	BINL21001	
担当者氏名	根川 幸男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それをとりまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

\*キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。  
 \*キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。  
 \*復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

\*毎回の講義後に提出する復習シート(40%)と期末レポート(40%)、平常点(20%=出席10%+授業参加態度10%)を合算して評価する。  
 \*授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

『よくわかるキリスト教』土井かおる著 (PHP研究所) 2004、  
 『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸 (講談社現代新書) 2011、  
 『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編 (岩波書店) 2002

《授業時間外学習》

\*その日の復習シートと質問(400字程度)をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。  
 \*キリスト教の正典である聖書にふれておく。  
 \*配布資料が散在しないように整理しておく。  
 \*新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

\*授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。\*携帯電話・メール使用、食事の禁止、遅刻20分以上=欠席、20分以内の欠席×3回=欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか? 講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19~20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理す

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	BINL21002	
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。一方、海外で邦人がイスラム関連の事件等に遭遇する可能性も高まっている。この授業を通して、イスラムに関する基本的な内容を把握すると同時に、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。VTRの視聴を通して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

店田廣文『イスラムを知る14 日本のモスク 滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社、2015/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/内藤正典『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』集英社、2015/『別冊歴史REAL イスラムと日本人』洋泉社、2015/『現代思想 2015年3月臨時増刊号 総特集◎シャル・エブド襲撃/イスラム国入質事件の衝撃』青土社、2015

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェックし、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ(例:モスクやハラルショップ 見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	イスラムをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

科目名	比較文化論	科目ナンバリング	BINL21004		
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

## 《授業の概要》

あなたの生活やあなたが生きている社会は、国内外の複雑で多様な人間や社会と結びついています。この授業は、アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験の豊富な教員がオムニバスで講義を行います。講義を通して文化の多様性について学び、他者理解を進めます。世界に広がる様々な文化を学び、考えることは、グローバル化する社会であなたが生きていくための一助となるでしょう。

## 《授業の到達目標》

- ・自国の文化を知り、海外の多様な文化や社会について理解を深める。
- ・兵庫大学が行う海外研修や提携大学の学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

## 《テキスト》

特に指定しません。

## 《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

## 《授業の到達目標》

## 《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

## 《成績評価の方法》

レポート・テスト50%  
 受講態度（授業への積極的な参加）50%

## 《備考》

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	比較文化論概説（1）	「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考える。
2	比較文化論概説（2）	文化を比較するとはどういうことかを考え、いくつかの理論を学び比較文化について理解を深める。
3	アジアの文化（1）	本学が交流している韓国の文化や社会について学ぶ。
4	アジアの文化（2）	本学が交流しているタイの文化や社会について学ぶ。
5	アジアの文化（3）	アジア各国・地域の文化や社会について理解を深める。
6	ヨーロッパの文化（1）	本学が交流しているヨーロッパの国の文化や社会について学ぶ。
7	ヨーロッパの文化（2）	本学が交流しているヨーロッパの国の文化や社会について学びを深める。
8	ヨーロッパの文化（3）	ヨーロッパの文化や社会について理解を深める。
9	北アメリカの文化（1）	本学が交流しているアメリカの文化や社会について学ぶ。
10	北アメリカの文化（2）	アメリカの文化や社会について学びを深める。
11	北アメリカの文化（3）	北アメリカの文化や社会について理解を深める。
12	南アメリカの文化（1）	本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学ぶ。
13	南アメリカの文化（2）	南アメリカの国の文化や社会について理解を深める。
14	学習のまとめ（1）	各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことをまとめる。
15	学習のまとめ（2）	授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について学ぶ。

科目名	歴史学	科目ナンバリング	BHIL21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。

アナル歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。

時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。

学期末のペーパーテストを60パーセントとします。

《テキスト》

なし。  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。
2	創られた伝統 1	夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！
3	創られた伝統 2	「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？
4	創られた伝統 3	母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。
5	自由への賛歌 1	近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。
6	自由への賛歌 2	市と自由 1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。
7	自由への賛歌 3	市と自由 2。縁切りと変身の原理。
8	自由への賛歌 4	変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。
9	自由への賛歌 5	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理 1。
10	自由への賛歌 6	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理 2。
11	小さな神仏の世界 1	来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。
12	小さな神仏の世界 2	背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。
13	小さな神仏の世界 3	暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。
14	総括 1	各項目間の関連の確認。
15	総括 2	全体のまとめ。

科目名	芸術	科目ナンバリング	BHIL21003
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	色彩とデザイン		科目ナンバリング	BHIL21004	
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。他の受講生に迷惑になる行為があった場合、座席の指定を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス:デザインの基礎	デザインの要素である「色」「かたち」「素材」について理解し、授業全体の流れについて理解する。
2	デザインの基礎(1):色① 色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。
3	デザインの基礎(2):色② 配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。
4	デザインの基礎(3):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
5	デザインの基礎(4):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
6	デザインの基礎(5):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

《共通教育科目 地域に学ぶ》

科目名	地域文化論	科目ナンバリング	BL0L21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。

原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。

できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の全体像の提示。考え方の提示。
2	考現学的アプローチ1	現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。
3	考現学的アプローチ2	「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。
4	アジアの中で日本を考えてみよう	日本は大国か？小国か？日本は「単一民族国家」なのか？日本文化は均質なのか？などなど、社会常識を再検討する。
5	東は東、西は西	日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。
6	歴史的アプローチ1	日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。
7	歴史的アプローチ2	播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。
8	歴史的アプローチ3	播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。
9	歴史的アプローチ4	播磨、特に東播の文化財を考察する。
10	歴史的アプローチ5	播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。
11	文化論的アプローチ1	播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。
12	文化論的アプローチ2	播磨、特に東播の「芸能」を考察する。
13	文化論的アプローチ3	播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。
14	文化論的アプローチ4	播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	哲学	科目ナンバリング	BSOL21001
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。  
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。  
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（60%）および学期末に設定するレポート課題（40%）によって評価を行う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。  
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。  
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。  
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。  
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	バルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ



《共通教育科目 現代社会を読み解く》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	BSOL21002
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。民法に限らず、刑事事件など幅広く講義する予定。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律問題やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジットカード・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン①	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン②	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件①	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件②	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	BSOL21003
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史		科目ナンバリング	BSOL21004	
担当者氏名	岩本 智依				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社  
 砂川秀樹・RYOJI『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス  
 岩本孝樹『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。  
 現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障害者差別禁止法と障がい者差別について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	BSOL21005
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	BSOL21006
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
- 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) ステイグマ	ステイグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類（社会的カテゴリー）について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイムについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解読 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解読 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解読 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解読 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	BSOL21007
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業” “お金儲け” などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	BNAL21001		
担当者氏名	本多 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力				

## 《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持て余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

## 《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

## 《テキスト》

講義の時、配布する。

## 《参考図書》

講義時に指示する。

## 《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

## 《成績評価の方法》

講義の出席 40%  
 授業の参加態度 20%  
 学期末レポート 40%

## 《備考》

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要説明
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／違いについて
5	安楽死と尊厳死②	誰が死期の決めるのか？
6	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
7	脳死と臓器移植①	脳死と臓器移植
8	脳死と臓器移植②	「死の基準」について
9	脳死と臓器移植③	ドナーカードについて
10	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
11	遺伝子操作／クローン技術①	遺伝子操作とクローン技術
12	遺伝子操作／クローン技術②	この問題をめぐる事例
13	生命倫理と宗教①	日本の宗教：神道
14	生命倫理と宗教②	日本の宗教：仏教
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	心理学	科目ナンバリング	BNAL21002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
(より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房  
(内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 §1~9》
2	情報, 入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって, どういうこと?(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 §4》
4	どうやって, 学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 §2~4》
8	君って, どんな人?(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って, どんな人?(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 §2~3》
11	あの人が, きつこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 §1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 §4》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 §4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.



科目名	化学	科目ナンバリング	BNAL21003
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-F 自然・健康について理解する力		

## 《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

## 《テキスト》

『コ・メディカル化学』  
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

## 《参考図書》

『あなたと化学』くらしを支える化学  
齋藤勝裕 著（裳華房）

## 《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

## 《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）により評価します。

## 《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
- 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

## 《備考》

- 授業中分からないところが有れば、その都度、質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP

科目名	生物学	科目ナンバリング	BNAL21004		
担当者氏名	佐藤 隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力				

## 《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

## 《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

## 《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻  
（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

## 《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

## 《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

## 《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。

## 《備考》

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系①	生物と環境
13	生態系②	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

科目名	食と健康	科目ナンバリング	BLIL21001		
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目指します。消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示します。国内外での実践事例や教材を紹介するので、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをまぎしません。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50％）、定期試験（50％）  
 ただし、授業の出席回数が授業実施回数の3分の2以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	ACAPの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやACEの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

《テキスト》

「暮らしの豆知識2016年版」 国民生活センター

《参考図書》

「ハンドブック消費者」 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。
- 課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	BLIL21002
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。  
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。  
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。  
 <復習方法>  
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せ
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	BLIL21002
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力</li> <li>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力</li> </ul>		

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する(減量など)。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養(リカバリー)の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)		科目ナンバリング	BLIS21003	
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめたレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)  
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	科目ナンバリング	BLIS21004
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 <復習方法>  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
 随時テーマに対するレポート提出(20%)  
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 キャリアデザイン》

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	BCAL21001
担当者氏名	三上 嘉代子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表



平成 28（2016）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

現代ビジネス学科 平成28年度（2016年度）入学者対象

( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ	
										1年		2年		3年		4年				
										I	II	I	II	I	II	I	II			
専門教育科目 キャリア基盤科目	プレゼンテーション	BCBS11001	演習	2							2								*1	62
	アプリケーションソフト	BCIS11001	演習	2							2								*2	63
	ボランティア体験A	BCTS32001	演習	2								2								
	ボランティア体験B	BCTS32002	演習	2									2							
	語学・異文化体験演習	BCTS32003	演習	4										2						
	短期インターンシップ	BCTS33004	演習	2											2					
	長期インターンシップ	BCTS33005	演習	2												4				
	簿記演習 I	BCBS21002	演習	2							2								三宅 伸二	64
	簿記演習 II	BCBS21003	演習	2								2							三宅 伸二	65
	工業簿記	BCBS22004	演習	2									2							
	簿記論	BCBL22005	講義	2										2						
	情報モラル	BCIL21002	講義	2							2								榎木 浩	66
	情報デザイン	BCIL21003	講義	2							2								西田 悦雄	67
	情報のための数学	BCIL21004	講義	2								2							森下 博	68
	グラフィックス	BCIL21005	講義	2								2							(田中 正彦)	69
	アルゴリズム	BCIL22006	講義	2									2							
	情報発信と検索	BCIL22007	講義	2									2							
	情報システム I	BCIL22008	講義	2											2					
	情報システム II	BCIL23009	講義	2												2				
	情報ネットワーク	BCIL22010	講義	2												2				
	情報セキュリティ	BCIL23011	講義	2													2			
	プログラミング演習 I	BCIS22012	演習	2												2				
	プログラミング演習 II	BCIS23013	演習	2													2			
	コンピュータシステム	BCIL23014	講義	2														2		
	情報と職業	BCIL23015	講義	2														2		
	データベース	BCIL23016	講義	2													2			
	ビジネス実務総論	BCBL21006	講義	2										2					土方 直子	70
	ビジネス実務演習	BCBS22007	演習	2											2					
	人生設計と資産運用	BCTL22006	講義	2												2				
	秘書総論	BCBL21008	講義	2													2		土方 直子	71
	秘書実務演習	BCBS22009	演習	2												2				
	グローバルスタディ A	BCTS23007	演習	2													2			
	グローバルスタディ B	BCTS23008	演習	2														2		
	職業指導	BCTL23009	講義	2														2		
実践科目	プロジェクト演習入門	BPPS11001	演習	2								2							*3	72
	プロジェクト演習 I	BPPS11002	演習	2									2						*3	73
	プロジェクト演習 II	BPPS12003	演習	2										2						
	プロジェクト演習 III	BPPS12004	演習	2												2				
合計					12	66														

- \*1 石原・竹川・中本・土方
- \*2 森下
- \*3 池本・堀池・木下・高野・榎木・西田・土方

カリキュラム年次配当表

現代ビジネス学科 平成28年度（2016年度）入学者対象

( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ	
				必修	選択	公民	商業	1年		2年		3年		4年						
								I	II	I	II	I	II	I	II					
演習科目	キャンパスライフ入門	BSSS11001	演習	2					2									*4	74	
	修学基礎 I	BSSS11002	演習	2						2								*5	75	
	修学基礎 II	BSSS12003	演習	2							2									
	専攻演習 I	BSSS12004	演習	2								2								
	専攻演習 II	BSSS13005	演習	2									2							
	専攻演習 III	BSSS13006	演習	2										2						
	卒業研究 I	BSSS14007	演習	2											2					
	卒業研究 II	BSSS14008	演習	2												2				
専攻基礎科目	現代ビジネス入門	BIOL11001	講義	2					2									李 良姫	76	
	経済学入門	BIPL11002	講義	2		○				2								中本 淳	77	
	統計学の基礎	BIRL11003	講義	2						2								高野 敦子	78	
	数学基礎	BIPL21004	講義		2				2									森下 博	79	
	経済学のための数学	BIPL21005	講義		2					2								高野 敦子	80	
	ビジネス英語入門	BIGS21006	演習	2			▲		2									[廣間 準一]・笹平 康弘	81	
	ビジネス英語 I	BIGS21007	演習	2			▲		2									[廣間 準一]・笹平 康弘	82	
	現代経済社会	BIRL21008	講義	2						2								石原 敬子	83	
	国際関係論	BIGL21009	講義	2							2							(斎藤 正寿)	84	
	社会調査の基礎	BIRL21010	講義	2							2							(田端 和彦)	85	
専攻専修科目	共通専攻科目	経営学	BAOL32001	講義	2			△			2									
		グローバル経済事情	BAOL32002	講義	2		●					2								
		ミクロ経済 I	BAOL32003	講義	2		○					2								
		マクロ経済 I	BAOL32004	講義	2		○					2								
		プロジェクト実践 I	BAOS33005	演習	2								2							
		プロジェクト実践 II	BAOS33006	演習	2									2						
		現代ビジネスの実際	BAOL22007	講義	2			△				2								
		経営戦略 I	BAOL22008	講義	2			▲					2							
		経営戦略 II	BAOL23009	講義	2			▲						2						
		企業経営研究 I	BAOL22010	講義	2								2							
		ビジネス法務	BAOL22011	講義	2								2							
		ビジネス文書	BAOL22012	講義	2								2							
		金融	BAOL23013	講義	2			▲						2						
		国際金融	BAOL23014	講義	2		●								2					
		社会政策	BAOL23015	講義	2		●							2						
		会社法	BAOL23016	講義	2									2						
		経営管理	BAOL23017	講義	2			▲							2					
合計				22	48															

\*4 三宅・石原・堀池・高野・榎木・西田・森下・澤山

\*5 石原・堀池・高野・笹平・西田・森下・土方・澤山

カリキュラム年次配当表

現代ビジネス学科 平成28年度（2016年度）入学対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係		学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成28年度の担当者	ページ	
				必修	選択	公民	商業	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専門教育科目 専攻専修科目	グローバルビジネス専攻科目	異文化理解	BAGL22001	講義	2					2								
		ビジネス英語Ⅱ	BAGS32002	演習	2					2								
		ビジネス英語Ⅲ	BAGS32003	演習	2						2							
		ビジネス英会話Ⅰ	BAGS33004	演習	2							2						
		ビジネス英会話Ⅱ	BAGS23005	演習	2								2					
		ビジネス英語（上級）Ⅰ	BAGS23006	演習	2								2					
		ビジネス英語（上級）Ⅱ	BAGS23007	演習	2									2				
		国際社会論	BAGL22008	講義	2					2								
		国際政治学	BAGL22009	講義	2						2							
		グローバルビジネス実務	BAGL23010	講義	2		▲					2						
		企業経営研究Ⅱ	BAGL23011	講義	2								2					
		グローバル経営	BAGL23012	講義	2									2				
	ビジネス情報システム	BAGL23013	講義	2										2				
	地域ビジネス専攻科目	地域政策	BARL32001	講義	2		●				2							
		現代の地域づくり	BARL22002	講義	2						2							
		管理会計	BARL22003	講義	2						2							
		財務会計	BARL22004	講義	2		▲					2						
		食と地域	BARL22005	講義	2		●					2						
		農業ビジネス	BARL23006	講義	2								2					
		観光学入門	BARL22007	講義	2		●					2						
		観光政策	BARL23008	講義	2								2					
		国際観光論	BARL23009	講義	2									2				
		コンピュータ会計	BARS23010	演習	2								2					
		中小企業会計	BARL23011	講義	2									2				
		マーケティング	BARL23012	講義	2		▲						2					
	起業家塾	BARL23013	講義	2									2					
	公共政策専攻科目	ミクロ経済Ⅱ	BAPL22001	講義	2		●					2						
		マクロ経済Ⅱ	BAPL22002	講義	2		●					2						
		統計学Ⅰ	BAPL32003	講義	2						2							
		統計学Ⅱ	BAPL22004	講義	2							2						
		行政と社会	BAPL22005	講義	2						2							
		現代社会と法	BAPL22006	講義	2		○					2						
		民法	BAPL22007	講義	2								2					
		経済政策	BAPL32008	講義	2		●						2					
産業と企業の経済学		BAPL23009	講義	2		●							2					
競争政策		BAPL23010	講義	2		●								2				
財政Ⅰ		BAPL23011	講義	2		●							2					
財政Ⅱ		BAPL23012	講義	2		●								2				
行政法	BAPL23013	講義	2											2				
合計			0	78														
総合計			34	192														

○は高等学校教諭一種免許状（公民）必修科目、●は高等学校一種免許状（公民）選択科目

△は高等学校教諭一種免許状（商業）必修科目、●は高等学校一種免許状（商業）選択科目

※単位数の②および④はコースにおける必修科目単位

**グローバルビジネス専攻の必修科目**

キャリア基盤科目：「プレゼンテーション」「アプリケーションソフト」「語学・異文化体験演習」の3科目（8単位）

専攻専修科目：「ビジネス英語Ⅱ」「ビジネス英語Ⅲ」「経営学」「グローバル経済事情」「ビジネス英会話Ⅰ」の5科目（10単位）

**地域ビジネス専攻の必修科目**

キャリア基盤科目：「プレゼンテーション」「アプリケーションソフト」の2科目（4単位）及び、「長期インターンシップ」

あるいは「短期インターンシップ」のいずれか1科目（2単位）、計3科目（6単位）

専攻専修科目：「地域政策」「経営学」「ミクロ経済Ⅰ」「マクロ経済Ⅰ」「プロジェクト実践Ⅰ」「プロジェクト実践Ⅱ」

の6科目（12単位）

**公共政策専攻の必修科目**

キャリア基盤科目：「プレゼンテーション」「アプリケーションソフト」の2科目（4単位）及び、「ボランティア体験A」

あるいは「ボランティア体験B」のいずれか1科目（2単位）、計3科目（6単位）

専攻専修科目：「経済政策」「統計学Ⅰ」「ミクロ経済Ⅰ」「マクロ経済Ⅰ」「プロジェクト実践Ⅰ」「プロジェクト実践Ⅱ」

の6科目（12単位）

カリキュラム年次配当表

現代ビジネス学科 平成28年度（2016年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択	公民	商業	1年		2年		3年		4年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
教職に関する科目	教職概論	BTAL41001	講義	2	○	△	2											(古田 薫)	86
	教育原理	BTAL41002	講義	2	○	△	2											岡本 洋之	87
	発達心理学	BTAL52003	講義	2	●	▲				2									
	教育心理学	BTAL41004	講義	2	○	△		2										(大平 曜子)	88
	教育制度論	BTAL41005	講義	2	○	△		2										[笹田 哲男]	89
	教育課程論	BTAL42006	講義	2	○	△				2									
	公民科教育法	BTPU43001	講義	4	○							4							
	商業科教育法	BTAC43001	講義	4		△						4							
	特別活動論	BTAL42009	講義	2	○	△				2									
	教育方法・技術論	BTAL42010	講義	2	○	△				2									
	生徒指導論	BTAL42011	講義	2	○	△				2									
	教育相談（カウンセリングを含む）	BTAL43012	講義	2	○	△							2						
	進路指導論	BTAL43013	講義	2	○	△						2							
	教育実習事前事後指導	BTAL44014	講義	1	○	△									4				
	高等学校教育実習	BTAL44015	実習	2	○	△								2					
	教職実践演習（高）	BTAL44016	演習	2	○	△										2			
合計				0	35														

○は高等学校教諭一種免許状（公民）必修科目、●は高等学校一種免許状（公民）選択科目

△は高等学校教諭一種免許状（商業）必修科目、●は高等学校一種免許状（商業）選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、

日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操2

指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	プレゼンテーション	科目ナンバリング	BCBL11001
担当者氏名	石原 敬子、竹川 宏子、中本 淳、土方 直子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力		

《授業の概要》

大学での学修ではもちろんのこと、社会生活の様々な機会においても必要とされるプレゼンテーションのうち、スピーチや口頭発表、討論などでの方法を実践を交えて学ぶ。授業では、各種のスピーチ（自己紹介、時事ニュースの紹介など）、プレゼンテーションの技術（ストーリーの作り方、発表の仕方）、ディベートの方法（立論、反論、最終弁論の作成）を演習を通して身につける。

《授業の到達目標》

- ・多様なテーマに応じたスピーチやプレゼンテーションができるようになる。
- ・オーラルなプレゼンテーションでのストーリーの作り方、説得の技術、発表の仕方を理解し、実践できるようになる。
- ・立論・反論・最終弁論の作成・発表について演習で取り組み、ディベートを行うことができる。

《成績評価の方法》

平常点（毎時間の授業時の課題への取り組み・評価、事前事後学習への取り組み状況）とレポート課題（3回を予定）をもって評価する。評価の割合は、平常点60%、レポート課題40%とする。なお、レポートを提出しなかった場合には、単位を取得できないので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要、進め方 プレゼンテーションとは	授業の狙い、進め方、到達目標、受講上の注意事項について説明する。 プレゼンテーションの目的や方法、効果について学び、その必要性について理解する
2	スピーチ (1) 魅力的な自己紹介	自己紹介の仕方を工夫し、印象に残るスピーチを行う。
3	スピーチ (2) さまざまなスキル	コミュニケーション・スキル、非言語的コミュニケーションについて学ぶ。
4	スピーチ (3) Show & Tell	お気に入りのものを持参し、提示しながら紹介する。
5	スピーチ (4) 最新の時事ニュース	新聞やテレビなどで報じられた最新の時事ニュースを取り上げ、紹介する。
6	口頭発表の技術 (1) ストーリーの作り方	プレゼンテーションでの構成のあり方、ストーリーの作り方について学ぶ。
7	口頭発表の技術 (2) 説得の技術	プレゼンテーションでの説得の技術について学ぶ。
8	口頭発表の技術 (3) レジュメの作成	プレゼンテーションの原稿に基づいて、レジュメを作成する。
9	口頭発表の技術 (4) 発表	工夫した発表を行う。
10	意見の形成と主張	賛否が分かれる問題について、自分の意見をまとめ、主張する。
11	ディベート (1) ディベートとは何か	ディベートの目的・流れ、ルールとマナーについて学ぶ。
12	ディベート (2) ディベートの準備	チームに分かれて、アイデアを練る。
13	ディベート (3) ディベートの準備	質問・反論の準備をする。
14	ディベート (4) ディベートマッチ	前回の授業で作成した内容に基づき、ディベートマッチを行う。
15	学習のまとめ	プレゼンテーションの目的や方法、実践についてふり返り、学んだ方法や技術について理解を深める。

《テキスト》

未定（Ⅱ期オリエンテーション時に指示する）

《参考図書》

プレゼンテーション協会『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング』実教出版、2015年。  
銅直信子・坂東実子著『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』図書刊行会、2013年。  
佐々木繁範著『スピーチの教科書』ダイヤモンド社、2012年。  
その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

毎時間、次回までの課題を指示するので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

科目名	アプリケーションソフト	科目ナンバリング	BCIS11001
担当者氏名	森下 博		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 情報処理能力 <input type="radio"/> 2-5 課題発見・分析力・解決力		

《授業の概要》

ビジネスでの現場での情報活用能力の実践を想定し、一般的に利用度が高いワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの3つに焦点を当て、より実践的な操作方法や知識を学習し、演習によるより高度な情報活用能力の修得を目指します。併せて、データの集計や分析、他者への説得力を向上させる方法等の獲得も目的とします。

《授業の到達目標》

1. ワードプロセッサの役割を理解し、拡張された機能を駆使した文書作成が行える。
2. 表計算ソフトの役割を理解し、基本操作と関数や拡張機能を駆使した集計や分析が行える。
3. プレゼンテーションソフトの役割を理解し、他者への有用な資料作成が行える。
4. 3つのアプリケーションの連携ができ、情報の集計や分析に役立てられる。

《成績評価の方法》

授業毎に提示する練習問題(40%)とその内容をもとに実践する提出課題での到達度(60%)の合計で評価します(紙媒体による筆記試験は行いません)。なお、授業方法が演習形式であるため、欠席回数が授業実施回数の1/3を超えときには単位認定をしません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ワードプロセッサ(1)	ガイダンスとビジネス文書編集
2	ワードプロセッサ(2)	文書作成と図の利用、ヘッダー・フッターによるレイアウト編集
3	ワードプロセッサ(3)	表組み、ワードアート、ページ罫線、図形の利用
4	ワードプロセッサ(4)	段組み文書作成
5	表計算ソフト(1)	表の基本：罫線を主とした書式設定と基本関数の活用
6	表計算ソフト(2)	参照：相対参照と絶対参照、VLOOKUP関数の活用
7	表計算ソフト(3)	条件：条件判定と論理関数の活用
8	表計算ソフト(4)	グラフ描画：単一グラフと複合グラフ
9	表計算ソフト(5)	集計：シート間の集計と書式の活用
10	表計算ソフト(6)	データベース関連機能の活用：ピボットテーブルとピボットグラフ
11	表計算ソフト(7)	編集作業の応用：コピーとリンク貼り付け、文字列操作関数
12	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションソフトの基礎と図表の利用
13	プレゼンテーションソフト(2)	スライド編集：スライドの視覚効果、スライドマスタ
14	プレゼンテーションソフト(3)	資料印刷：配布資料とノート
15	総合的演習	それぞれのソフトの応用課題と3つのアプリケーションソフト間での連携

《テキスト》

指定の教科書はありません。授業内で配布するプリントや紹介するWebページなどを利用します。

《参考図書》

特に指定する図書はありません。有用な参考図書や情報は授業内で必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題は演習時間だけでなく授業外の時間も活用し、完成度を一層向上させるように努力してください。授業や課題と直接関係がないものであっても、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを活用し、常に復習のつもりで取り組んでください。

《備考》

コンピュータをより深く理解し、より高度な応用力を身につけるため、普段からコンピュータの活用を心がけてください。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	簿記演習 I	科目ナンバリング	BCBS21002
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

商業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定に向けた基礎を学習します。取引ごとに問題演習をし、貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

取引を仕訳で表現することを身につけるとともに、貸借対照表と損益計算書の意義と作成方法を習得します。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記の基礎	簿記とは何か
2	日常の手続き	仕訳の仕組み
3	勘定	仕訳から勘定記入の流れ
4	商品売買	商品売買の基本的な処理方法 三分法
5	現金	簿記上の現金とその取扱い
6	当座預金	当座預金の意味と取扱い 当座借越の処理
7	小口現金	小口現金の意味と処理 インプレストシステムの仕組みと処理方法
8	約束手形	手形の仕組みと約束手形の基礎的処理方法
9	その他の期中取引	前受け・前払い、仮受け・仮払い、利息計算、付随費用、有価証券、租税公課、引出金などの処理方法 訂正処理の仕方
10	試算表 1	試算表の意義 試算表の仕組みと作成方法。
11	試算表 2	試算表の作成演習
12	決算手続き 1	貸倒引当金、有価証券の評価、消耗品の処理、未収・未払いの処理、減価償却
13	決算手続き 2	売上原価の計算
14	精算表	精算表の形式と作成方法
15	復習と確認	簿記の基本的処理の確認と総合演習



《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	簿記演習Ⅱ	科目ナンバリング	BCBS21003
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

前半は商業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定に向けた基礎を学習します。後半は問題演習を中心に貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。2月に行われる日商簿記検定合格を目指しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

簿記演習Ⅰ・Ⅱを通じて簿記の基本を身につけます。この科目を学んだ後、会計学入門・会計学・工業簿記・財務諸表論・簿記論へと学習を進めることで、会計学の専門知識を習得することができます。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	簿記学習の目的
2	簿記の目的	貸借対照表・損益計算書・仕訳
3	商品売買（1）	仕入と売上
4	商品売買（2）	売上原価の算定（決算整理仕訳）
5	固定資産（1）	固定資産の取得・減価償却（決算整理仕訳）
6	固定資産（2）	固定資産の売却
7	手形取引（1）	手形取引の決済と貸倒
8	貸倒引当金	貸倒損失と貸倒引当金
9	復習と確認（1）	簿記の基本的処理の確認と総合演習
10	費用の見越しと繰り延べ	費用の見越しと繰り延べ（決算整理仕訳）
11	手形取引（2）	手形の裏書と割引・為替手形
12	未払金と未収金	仕入と売上以外の取引
13	仮払金と仮受金	仮払時・仮受時の処理方法と確定時の処理方法
14	有価証券	有価証券の購入・売却・評価替（決算整理仕訳）
15	復習と確認（2）	簿記の基本的処理の確認と総合演習

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	情報モラル	科目ナンバリング	BCIL21002
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

インターネットやケータイ、スマートフォンの普及により大量の情報に瞬時に接し、情報を活用することにより日々の生活において様々な利便性が得られる一方、いじめや詐欺などのトラブル、ウィルスの被害、著作権侵害などの危険性と隣り合わせでもあり、自己の責任において対処しなければならない。この授業では情報に関連した法律、モラル、技術を学び、適切なルールやマナーのもとで情報を取り扱う方法や考え方を学ぶ。

《授業の到達目標》

- インターネットのルールやマナーを理解できる。
- インターネットでのトラブルに対処できる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート課題等の提出物50%
- (2) 到達度レベル確認50%

《テキスト》

毎回プリントを配布する。

《参考図書》

『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版、2014  
 『最新 事例でわかる情報モラル』実教出版

《授業時間外学習》

- (1) 事前学習  
 予め授業のプリントを公開するので読んでくること。
- (2) 事後学習  
 テーマ終了毎に課題を出すので、レポートにして提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、および成績評価の説明。 情報モラルとは何か
2	情報と情報社会	情報と情報社会の特徴、インターネットの光と影、情報のはたらきと性質
3	情報と情報社会	情報の受信・発信と個人の責任
4	個人情報と知的財産	個人情報とは、個人情報の流出と保護
5	個人情報と知的財産	知的財産権、著作権、知的財産の正しい利用
6	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	電子メールによる情報の受信・発信
7	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	Webページによる情報の受信・発信
8	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	ネット上のコミュニケーション
9	情報社会における生活	社会生活における情報
10	情報社会における生活	身近な生活における情報
11	情報社会における生活	ネット社会におけるトラブルと犯罪
12	情報セキュリティとネット被害	情報セキュリティ
13	情報セキュリティとネット被害	コンピュータへの被害
14	情報セキュリティとネット被害	ネット社会のセキュリティ技術
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達度レベルを確認する。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	情報デザイン	科目ナンバリング	BCIL21003
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力		

《授業の概要》

社会への参画にはコミュニケーション能力を要し、やり取りされる情報を正確でわかりよい伝達が必要です。情報の特性や特徴を捉え、より良いコミュニケーションの表現や技術、表現方法、思考など情報の設計を学びます。授業では基礎的な知識や考え方を説明する講義を主としますが、理解度を高めるための演習も行います。考え方や表現方法は主観的な要素を多く含みますが、この科目では客観的な視点での情報を扱います。

《授業の到達目標》

情報を分かりやすくかつ正確に適切な情報量を伝達するため、

1. 情報の整理ができること、
2. 表現の意味と方法が理解ができること、
3. それら意味と表現を活用し適切な表現ができること、を到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(40%)、試験に代わる課題(50%)、平常点(10%)とし総合的に判定し評価します。

課題提出は授業内で提示された課題のすべてを対象とします。

欠席回数が全授業実施回数の1/3以上ある場合には、単位認定ができないことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要・導入	情報とは？ 情報をデザインするとは？
2	意味と形式	意味と形式の違い
3	整理	情報を整理するためのアイデアや方法
4	形	形が有する情報の活用
5	色	色彩が有する情報の活用
6	図・表・グラフ	図や表とグラフの違いと有用性
7	モデリングの基礎(1)	「もの」の特性：インスタンスとクラス
8	モデリングの基礎(2)	「もの」の特性：関連 集約の概念とその応用
9	モデリングの基礎(3)	「もの」の特性：関連 汎化と継承の概念とその応用
10	モデリングの基礎(4)	「手続きと制御」：事象の時系列、シナリオ、事象トレース図
11	モデリングの基礎(5)	「手続きと制御」：並行・同期動作、アクティビティ図
12	モデリングの基礎(6)	「手続きと制御」：事象、状態、動作、状態遷移図の概念と応用
13	モデリングの基礎(7)	「機能と入出力」：プロセスとデータストア
14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの定義と有用性
15	まとめ	その他補足とまとめ

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考図書》

Sinan Si Albir著, 原 隆文 訳, 『入門UML』, オライリージャパン, ¥3,360.-

Russ Miles, Kim Hamilton著, 原 隆文 訳, 『入門UML2.0』, オライリージャパン, ¥2,940.- など。その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

課題作成は授業時間内での作業を予定していますが、授業時間内で完成しない場合には時間外で作成して下さい。

授業内で配付する資料を熟読し理解して下さい。

《備考》

より深い理解を促すために授業計画の順序等変更・修正する場合があります。

科目名	情報のための数学		科目ナンバリング	BCIL21004	
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力				

《授業の概要》

授業では、情報科学の分野で必要とされる数学とその思考の方法について取り上げます。問題の本質を捉え、正解または最適解に近づくために必要な数学的手法の獲得を目指します。具体的には、数の表現方法、初等解析、線形代数、数理論理などの基礎概念について扱うこととし、その理解とともに、数学的なアプローチの強みとその解決を実感できることを目指します。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業の到達目標》

- 与えられた問題の本質を捉え、目標達成までのビジョンを描くことができる。
- 与えられた問題に対するアプローチの方法について、説明することができる。
- 与えられた問題を解決するまでの過程を、段階に分けて進めることができる。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《成績評価の方法》

提出課題40%  
筆記試験60%

《備考》

日常の問題にはいつも正解と対策が用意されているわけではありません。解決に向けてどのように数学を駆使するか、そのアプローチの感覚を身に付けてほしいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業展開と概要説明	授業の概要を説明するとともに、情報のための数学の具体的な事例紹介をおこなう。
2	データと情報の表現	問題解決のための戦略として、シミュレーションの活用と数学的思考について学ぶ。
3	情報と基数変換(1)	指数法則をもとに累乗の概念を自然数より広い範囲に拡張する考え方について学ぶ。
4	情報と基数変換(2)	十進数から二進数や十六進数などへの基数変換をもとにして色の表現について学ぶ。
5	情報と基数変換(3)	数の表現方法としてのさまざまな位取り記数法による進数表現と計算について学ぶ。
6	関数と初等解析(1)	指数を零乗と負数乗と有理数乗へと拡張した指数関数の単調性や傾きについて学ぶ。
7	関数と初等解析(2)	指数関数と対数関数のグラフ化と関係性について触れ、対数表の活用について学ぶ。
8	関数と初等解析(3)	三角比の定義から周期性のある三角関数に拡張し、その性質やグラフについて学ぶ。
9	行列と線形代数(1)	行列の演算と性質をもとにして行列表現による多元連立方程式の解法について学ぶ。
10	行列と線形代数(2)	行列式の定義とその性質をもとにした余因子展開による値の計算方法について学ぶ。
11	行列と線形代数(3)	行列を用いた図形の平行移動と拡大縮小および回転の座標変換の仕方について学ぶ。
12	集合と数理論理(1)	コンピュータ内部での演算の仕組みを知るための論理演算と集合演算について学ぶ。
13	集合と数理論理(2)	命題を記号を用いて表現し、論理式によって推論をおこなう命題論理について学ぶ。
14	集合と数理論理(3)	予想した命題の正しさを証明する手段として、数学的帰納法と背理法について学ぶ。
15	授業総括と振り返り	授業内容を総括し、情報のための数学のツールとそのアプローチについて振り返る。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	グラフィックス	科目ナンバリング	BCIL21005
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 3-4 創造力		

《授業の概要》

コンピュータグラフィックスの基礎的技法を学び、イラスト作成などの作品制作に結びつける。  
この授業では色や形の情報を数値で表すベクトルグラフィックスを主に扱います。  
フリーのCGソフトであるInkscapeを用いて作品作りを行います。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。  
画像の表現方法、データの扱い方、色彩、構成  
ドローソフトの使い方、グラフィックスの基礎的技法

《成績評価の方法》

毎回課題提出があります。  
毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)

《テキスト》

なし  
資料はe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考図書》

CGに関する書籍は数多く出版されているので、いろいろ読んでみることを薦めます。  
また、CGに限らず絵画を見ることも作品制作の参考になります。  
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。  
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

基本をきっちり理解し、楽しく作品制作にとりくみましょう。  
e-Learningシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	授業概要とeラーニングの使い方
2	ドローソフトとは	ドロー系ソフトウェアの基本的な使い方
3	作品の構成	ドロー系ソフトウェアでの作品制作の考え方
4	パスの構造	パスの構造とその編集方法
5	ベジェ曲線	ベジェ曲線を描くツールの使い方
6	着色	パスの色、色の表現、グループ化
7	グラデーション	グラデーションの作り方、使い方
8	ビットマップデータ	画像ファイルの利用と作成
9	レイヤー (1)	レイヤーと部品の重なり
10	レイヤー (2)	レイヤーをうまく使って作業する
11	いろいろな機能	スナップ、整列、配置、クリップ
12	文字	文字に関する機能
13	作品制作(1)	印刷物としての作品を考える
14	作品制作(2)	作品の構成を考える
15	作品制作(3)	作品制作と講評

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	ビジネス実務総論		科目ナンバリング	BCBL21006	
担当者氏名	土方 直子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 1-2 主体的に学び考える力</li> <li>◎ 2-3 ビジネス基礎力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-3 キャリア形成力</li> </ul>				

《授業の概要》

現代社会の経済活動の中心となる会社について、その存在意義・機能・組織形態について理解し、会社の一員として働く際に必要な基礎知識と技術を習得します。職場常識・ビジネスマナー・マネジメント方法からビジネス倫理まで幅広く学ぶことで働くイメージが具体的にあり、自らのキャリア形成にも役立ちます。

《テキスト》

『ビジネス実務総論』一般財団法人全国大学実務教育協会編、紀伊国屋書店発行、2012

《参考図書》

『礼節のルール～思いやりと品位を示す不変の原則25』P・M フォルニディスカヴァートワンティワン、2011

《授業の到達目標》

- 現代社会のしくみや会社活動について理解できる。
- ビジネス実務の基礎知識を理解し、基礎的技術を活用できる。
- ビジネス現場の課題についてメンバーと協働して取り組み、問題解決に導くことができる。
- 自らの働くイメージを具体的にすることができる。

《授業時間外学習》

- 予習の方法：テキストの授業予定部分を熟読し、わからない言葉の意味を調べておくこと。
- 復習の方法：授業内容を振り返り、小テストで出来なかったところを確認すること。

《成績評価の方法》

定期試験（50％・テキスト等持ち込み不可にて実施）、毎回講義で提出する「確認シート」（20％）、課題等の提出物（30％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代のビジネス環境と社会人としての基本	現代のビジネスを取り巻く環境、様々な雇用形態、社会人として働くことを考える。
2	会社活動の基本	会社の存在意義と機能、組織形態、社会的責任について学ぶ。
3	ビジネスマンに求められる資質と職場常識	職業人としてのモラル、職場常識、ビジネス倫理、コンプライアンスについて学ぶ。
4	仕事の基本的な進め方	職場でのホウレンソウ、PDCAサイクル、会議・出張コーディネートの基礎知識を学ぶ。
5	ビジネスコミュニケーションの基本	職場で必要な話し方、聴き方、言葉遣いについて学ぶ。
6	ビジネスに必要な情報業務①	指示の受け方、報告の仕方、メモ作成の基本について学び実践する。
7	ビジネスに必要な情報業務②	ビジネス文書の形式と内容の基本、文書に必要な独特の言い回しについて確認する。
8	ビジネスに必要な情報業務③	現代の通信手段に欠かせないビジネスメールの作成時のポイント、マナーを学び、ビジネスメールの作成に取り組む。
9	チームワークとコミュニケーション	チーム活動に必要な対人コミュニケーションの基本を学び、グループディスカッションを通して実践する。
10	問題解決とプレゼンテーション	ビジネス現場で想定される課題にグループで取り組み、解決策を考え、プレゼンテーションを行う。
11	情報管理とメディアの活用	現代社会の様々な情報ツールについて、活用方法を学ぶ。
12	ビジネス法規	ビジネス現場で必要とされる法律の基礎知識を学ぶ。
13	来客対応と電話対応	ビジネス現場での来客対応、電話のマナーについて学び、実践する。
14	ビジネスマナー	社会人に必要な様々なマナー（公共のマナー、食事のマナー、服装のマナー、冠婚葬祭のマナー等）
15	これからの時代のキャリア形成	ビジネス実務で学んだことをもとに自らの将来像をイメージし、関心のある業界や職種について調べる。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	秘書総論	科目ナンバリング	BCBL21008		
担当者氏名	土方 直子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>◎ 2-3 ビジネス基礎力</li> <li>○ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-3 キャリア形成力</li> </ul>				

《授業の概要》

秘書としてサポート業務を行う際の心構えや仕事の内容・進め方、コミュニケーションの取り方などを学び、交際業務や接遇の知識を身につけます。こうした業務に精通していることは、秘書として働く場合はもちろんのこと、事務職等においても役立ちます。また、新入社員としての仕事は上司や先輩のサポートをすることでスタートするので、好感度の高い対応ができるようになります。

《授業の到達目標》

- 「秘書」とは何か、その立場や仕事内容を理解できる。
- 秘書に求められる基礎知識を理解できる。
- 「サポート業務」の意味を理解し、ビジネスにおける様々な場面で適切な考え方をすることができる。

《成績評価の方法》

定期試験(60%・テキスト等の持ち込み不可にて実施)、毎回の講義で実施する小テストおよびワークシートの提出(40%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	秘書の仕事と役割	「秘書」とは何か、その役割と歴史、仕事内容について学ぶ。秘書業務の基本となるサポート業務について理解を深める。
2	秘書に求められる資質と能力	秘書にふさわしい人物像について、求められる資質や能力という観点から確認する。秘書として働くにあたっての心構えや気配りについて学ぶ。
3	秘書実務の内容と仕事の進め方	基本的な秘書業務の種類や内容を確認し、秘書としての仕事の進め方の基本を身につける。
4	秘書としての一般常識	秘書に求められる一般常識として、「会社形態」「経営管理」「財務知識」「税務知識」の基礎を学ぶ。
5	秘書のコミュニケーション	秘書としての様々なコミュニケーション方法、ビジネス会話の基本的な話し方・聞き方を学ぶ。
6	言葉遣いと話し方・聞き方	ビジネスシーンでの正しい言葉遣い(敬語)、接遇表現を学ぶ。
7	接遇実務	感じの良い接遇(柔らかい印象の話し方、丁寧な応対、細やかな気配り等)を理解し、実践する。
8	来客応対	来客応対の基本について内容を理解し身につける(名刺の取扱い、ご案内、茶菓サービス、見送り、席次等)
9	電話応対	電話応対の基本について内容を理解し身につける(電話の受け方・かけ方のポイント、電話特有の表現方法等)
10	出張業務	秘書の三大業務の一つである「出張業務」について、スケジュール作成や手配業務を学ぶ。
11	会議コーディネーター	会議について一連の業務を学ぶ(会議の種類、準備、会議中のサポート、終了後の業務等)
12	文書・メールの作成と取扱い	ビジネス文書、ビジネスメールの基本的知識を修得し作成方法を学ぶ。各種文書の取扱い方法についての理解を深める。
13	情報収集・管理	ビジネスに必要な情報収集の方法、情報管理の重要性について学ぶ。現代社会のメディアの種類や特徴について確認する。
14	交際業務とビジネスマナー	交際業務(慶弔行事)や贈答のしきたり、ビジネスマナーの基本(食事のマナー、服装のマナーなど)を学ぶ。
15	これからの時代の秘書に求められる実務	現代の社会状況や流れを学び、変化する秘書業務について理解を深め、臨機応変な対応ができるようにする。

《テキスト》

『新しい時代の秘書ビジネス実務』  
全国大学実務協会編集、紀伊国屋書店、2014

《参考図書》

『礼節のルール～思いやりと品位を示す不変の原則25』P・M  
フォルニ ディスカバヴァー・トゥエンティワン、2011

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの授業予定部分を熟読し、わからない言葉の意味を調べておくこと。
- (2) 復習の方法：授業内容を振り返り、小テストで出来なかったところを確認すること。

《備考》

ビジネスシーンで必要とされる正しい言葉遣いを身につけるために、普段の生活から意識してきちんとした話し方を心がけること。

《専門教育科目 プロジェクト実践科目》

科目名	プロジェクト演習入門		科目ナンバリング	BPPS11001	
担当者氏名	池本 廣希、堀池 聡、木下 準一郎、高野 敦子、榎木 浩、澤山 明宏、西田 悦雄、土方 直子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 多様なものの見方、考え方 1-3 コミュニケーション力 1-5 チームワーク力 2-4 情報処理能力				

《授業の概要》

プロジェクト学習では、学生が主体的に課題を発見・提起し、学んだ知識を利用して調査・思考を行い、課題に対する解決策を導き出し、それをきちんと報告・発表できることが求められる。この授業では、チーム活動を通して問題解決のプロセスを体験しながら、プロジェクト学習とは何か、プロジェクト学習を進める上での道具・手法について講義と演習により学ぶ。

《授業の到達目標》

課題発見、目標設定、計画立案、情報収集・分析・判断・評価、課題解決、報告（プレゼンテーション）、振り返り（自己評価と成長確認）というプロジェクト学習の基本的な流れを理解する。

《成績評価の方法》

平常点50%  
成果物（成長報告書とポートフォリオ）50%

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

鈴木敏恵：プロジェクト学習の基本と手法、教育出版、2012年

《授業時間外学習》

期限のある作業について、授業中に終わらなかった場合は授業時間外にグループで作業を完了させること。

《備考》

ポートフォリオを整理すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の説明、授業の進め方、グループ編成
2	プロジェクト学習とは	プロジェクト学習とは何かを学習する。
3	ブレインストーミングとKJ法	グループ討議でよく用いられるブレインストーミングとKJ法を実践を通して学習する。
4	問題発見と目標設定（講義・演習）	問題発見と目標設定の仕方を講義と演習を通して学習する。
5	計画立案と情報収集（講義・演習）	計画立案と情報収集の仕方を講義と演習を通して学習する。
6	問題解決策の創出（講義）	問題を解決するための情報分析、アイデア創出、判断について学習する。
7	問題解決策の創出（演習）	問題解決策の創出を演習を通じて学習する。
8	問題解決策の評価（講義）	創出したアイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、最も評価の高いアイデアを選ぶ方法を学習する。
9	問題解決策の評価（演習）	問題解決策の評価を演習を通して学習する。
10	問題解決策の具体化（講義）	決定したアイデアをより具体化し、問題解決策を実現するための実際の方策を考え、まとめる方法を学習する。
11	問題解決策の具体化（演習）	問題解決策の具体化を演習を通して学習する。
12	プレゼンテーション（講義）	第3者に伝えるために報告書としてまとめる方法を学習する。
13	プレゼンテーション（演習）	第3者に伝えるために報告書としてまとめる。
14	プレゼンテーション（演習）	まとめた報告書を発表する。
15	自己評価と成長確認	プロジェクトの活動について必ず振り返りを行い、自身の達成度を自己評価（コンピテンシー）し改善点をまとめ、成長報告書を作成する。



《専門教育科目 プロジェクト実践科目》

科目名	プロジェクト演習		科目ナンバリング	BPPS11002	
担当者氏名	池本 廣希、堀池 聡、木下 準一郎、高野 敦子、榎木 浩、澤山 明宏、西田 悦雄、土方 直子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	1-1 多様なものの見方、考え方 1-3 コミュニケーション力 1-5 チームワーク力 2-5 課題発見・分析力・解決力 3-4 創造力				

《授業の概要》

プロジェクト演習入門で学んだ内容をもとに、大学生活やキャンパスでの身近な課題を発見し、その課題解決にチームで取り組む。学生が自らテーマとなる課題を決定し、その解決に必要な情報や知識を収集し、解決策となるアイデアを創出し、実現可能な解決方法として提案する。最後にチームで報告としてまとめ発表する。この演習ではプロジェクト学習の基本的な流れを学生自身が実践、習得することに主眼を置く。

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

鈴木敏恵：プロジェクト学習の基本と手法、教育出版、2012年

《授業の到達目標》

課題発見、目標設定、計画立案、情報収集・分析・判断・評価、課題解決、報告（プレゼンテーション）、振り返り（自己評価と成長確認）というプロジェクト学習の基本的な流れを実践できること。

《授業時間外学習》

期限のある作業について、授業中に終わらなかった場合は授業時間外にグループで作業を完了させること。

《成績評価の方法》

平常点50%  
成果物（成長報告書とポートフォリオ）50%

《備考》

ポートフォリオを整理すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の説明、授業の進め方、グループ編成
2	準備	プロジェクトが取り組むテーマ（題材）を決め、そのテーマから問題（課題）を発見し、問題の本質を見極め明らかにする（目標設定）。
3	目標設定と計画立案	目標を達成するために必要な情報や作業を考え、時間配分等して、問題解決のための計画を立て、工程表を作成する。
4	問題解決案の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
5	問題解決案の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
6	問題解決案の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決案を評価する。
7	問題解決案の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決案を評価する。
8	問題解決案の評価・選定	解決案の評価にもとづき、最も評価の高いアイデアを選ぶ。
9	問題解決案の具体化・実施	問題解決案を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
10	問題解決案の具体化・実施	問題解決案を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
11	問題解決案の具体化・実施	問題解決案を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
12	プレゼンテーション用の制作	第3者に伝えるために報告書としてまとめる。
13	プレゼンテーション用の制作	第3者に伝えるために報告書としてまとめる。
14	プレゼンテーション	報告書を発表する。
15	自己評価と成長確認	プロジェクトの活動について必ず振り返りを行い、自身の達成度を自己評価（コンピテンシー）し改善点をまとめ、成長報告書を作成する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	キャンパスライフ入門		科目ナンバリング	BSSS11001	
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、堀池 聡、高野 敦子、榎木 浩、澤山 明宏、西田 悦雄、森下 博				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 主体的に学び考える力 1-3 コミュニケーション力 2-3 ビジネス基礎力 2-4 情報処理能力 3-3 キャリア形成力				

《授業の概要》

1年 期の初年次教育として、4年間の大学生活を有意義に送るために必要な知識、大学が期待していること、地域が期待していること、社会生活のルールとマナー等を講義（外部講師講演含む）や演習を通じて学び、兵大生としての自覚と誇りを持ち、地域で活躍する人材となって育って行くための動機付けを行う。

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

随時紹介する

《授業の到達目標》

- ・兵大生としての自覚と誇りを持ち、地域で活躍する人材となって育って行く第一歩を踏み出すための知力・能力・人間力を修得する心構えを身に付ける。
- ・学修ポートフォリオを活用し、学習や生活に意欲的に取り組むことができる。
- ・キャリアポートフォリオを活用し、キャリア形成の意識を向上させ、自己実現に向けて積極的に行動する力を身につける。

《成績評価の方法》

平常点50%  
ポートフォリオ（各テーマ成果物）50%

《授業時間外学習》

授業各テーマの最後には、授業内容に沿った課題を課し、レポート等を提出することを義務づける。

《備考》

楽しい大学生活を過ごしましょう。  
授業進行によって各週テーマの入れ替えがあるかもしれません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、ポートフォリオの意義と内容、キャリアストーリー「自分史」の説明
2	キャリアストーリー「自分史」の作成	子どもの頃、中学、高校までの自分をノンフィクション作品としてまとめる。
3	キャリアストーリー「自分史」の作成	子どもの頃、中学、高校までの自分をノンフィクション作品としてまとめる。
4	現Bizでの学び（ワークショップ）	フレッシュマンセミナーで実施したワークショップの結果をブラッシュアップする
5	現Bizでの学び（まとめと学部長講話）	現Bizでの学びのまとめと、学部長により講話
6	キャリアストーリー「大学生活」の作成	現Bizでの学びワークショップを参考に、在学中の自分の目標とそれを実現するための具体的な活動をまとめる。
7	講話（外部講師）	卒業後のキャリアストーリーに役立つための講演を外部講師により実施する。
8	キャリアストーリー「将来像」の作成	自分史や在学中の目標や活動から見えてきた卒業後の将来像を見つめてまとめる。
9	情報モラル講習（兵庫県警）	スマートフォン等の利用に伴う被害遭わないための情報モラル講習会を実施する。
10	情報（資料）収集と活用・図書館の利用	情報ツール未使用での情報収集と活用を学ぶ。
11	情報（資料）収集と活用	教員へのインタビューや図書館での調査などにより教員プロフィールを作成する。
12	情報（資料）収集と活用	教員へのインタビューや図書館での調査などにより教員プロフィールを作成する。
13	情報（資料）収集と活用（発表）	作成した内容を発表する。
14	修学基礎 説明	期「修学基礎」の説明とクラス分け
15	自己点検と次期に向けて	ポートフォリオをもとにした自己点検を行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	修学基礎	科目ナンバリング	BSSS11002
担当者氏名	石原 敬子、堀池 聡、高野 敦子、澤山 明宏、笹平 康弘、西田 悦雄、森下 博、土方 直子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 主体的に学び考える力 1-3 コミュニケーション力 2-2 論理的思考力 2-3 ビジネス基礎力 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

授業において日本語の読み書きは重要な能力である。この授業では、日本語を「読む」「書く」「聴く」「話す」という基本的な能力、いわゆる基礎的な日本語運用能力の向上を徹底的に図る。日本語の文章を「読む」では読み取る力（文章読解力）を、文章を分析する能力を磨く。「書く」では、日本語の文章を使って自分の考えていることを、読み手に正確に分かりやすく伝える力（文章表現力）を培う。

《テキスト》

教科書は特に指定しません。必要に応じて適宜資料を配布します。

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

1. 日本語での文書を読解できる。
2. 日本語での文章を構成でき記述できる。
3. 日本語による適切な文書表現ができる。
4. 日本語での会話（聴く・話す）ことを活用し、コミュニケーションが図れる。  
など日本語のリテラシの確立を目指す。

《授業時間外学習》

授業内で学んだことをノート等にまとめ、理解が不足している点は次回の授業までに理解を深めておくこと。課題等の作成は時間外に作成すること。身の回りに存在する文章に関心を持つこと。

《成績評価の方法》

授業内での小テスト(40%)、レポート等課題(40%)、平常点(20%)で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	聴くこと・話すこと	自己紹介により、他人の話しの内容の理解と自らの発表の内容の吟味
3	話の中心を考える・正確に聴き取る	テーマに沿った話題についての発表と聴き取り
4	質問しながら訊く・事実と意見の違い	インタビュー形式による聴き取りと発表
5	話の順序と組立	時系列や空間等による順序と組立
6	文章を読む(1)	事実と意見の違いを見抜く
7	文章を読む(1)	目的や趣旨、課題の発見
8	文章を読む(1)	文章の構成を意識
9	文章を読む(1)	文章表現から意図を汲み取る
10	書くことの振り返り	課題設定・取材、構成、記述、推敲、交流の過程の確認
11	伝えたいことの明示と構成	伝えたい事項の明示とその効果、構成
12	案内を書く	相手を意識した伝達すべき事項の取捨選択
13	文章の推敲	より良い文章表現のための推敲
14	文章の発表	推敲した文章の発表
15	まとめ	その他補足および総括

科目名	現代ビジネス入門	科目ナンバリング	BIIL11001
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

現代ビジネス学科での学びを概観する授業で、日本経済や地域社会が直面する諸課題を経済と経営の側面から考察する。ビジネスは、その時代や社会のニーズに応える形で生まれるものであり、人々の暮らしを支え、経済・社会の発展に貢献している。この授業では、グローバルビジネス、地域ビジネス、公共政策の視点から、企業活動の意義、公的機関の役割について検討し、現代社会におけるビジネスの意味について理解を促す。

《授業の到達目標》

- 1) ビジネスとは何かについて説明することができる。
- 2) ビジネスの仕組みについて理解できる。
- 3) 日本経済が抱えている課題について理解できる。
- 4) 企業の経営仕組みを理解できる。
- 5) 現代ビジネスの役割と意義について理解できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果20%（参加意欲および討論内容によって評価する）
- (2) レポート課題等の提出物20%
- (3) 定期試験60%

《テキスト》

特にテキストは使用しない。資料を配布する。

《参考図書》

『入門経済学【第2版】』井原哲夫著、東洋経済新聞社2013  
 『経験から学ぶ経営学入門』上林憲雄他著、雄有斐閣ブックス2007  
 『日経ビジネス日本経済入門』日経ビジネス編、日経BP社2014  
 『最新日本経済入門 第4版』小峰隆夫・村田啓子著、日本評論社2012

《授業時間外学習》

- (1) 日本の経済や地域の経済に関連する資料や情報を集め、メモを取り、それらを討論の際に活用する。
- (2) 事前に配布した資料について目を通し、出された課題について調べ提出する。

《備考》

常に地域の経済や企業の動きに興味を持ち、インターネットや新聞記事などの資料を多く集めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業概要について説明した上で、テキスト・参考図書の紹介を行う。
2	現代ビジネスの定義	ビジネスとは何かについて理解し、ビジネスの仕組みを説明できる。
3	日本経済の現状と課題	現在における日本経済の動向と現状を説明し、日本経済が抱えている課題について理解できる。
4	地域経済の課題	地域社会が抱えている課題を経済的な側面から考察し、その課題に対する解決策について議論・提案することができる。
5	グローバルビジネス動向	目まぐるしく変化する世界のビジネス動向を把握し、その変貌にどのように対処していくかについて考察することができる。
6	需要と供給	消費者と需要、需要供給と市場について分析し、それぞれの特徴について説明できる。
7	経済成長	経済成長の条件、経済開発及び経済成長が引き起こす環境問題について考察し、持続可能な経済成長の可能性について考えることができる。
8	企業経営理念	会社の経営とはどんなことか、会社はどのような方針で動いているのかについて追求することができる。
9	企業組織と社員	会社はどんな仕組みで動いているのか、社員は仕事をどのように分担しているのかについて説明することができる。
10	人材育成制度	企業では、社員はどのようにして育成されるのかについて説明することができる。
11	国際経営	会社は、海外でどのように経営しているのかについて説明することができる。
12	企業の社会貢献	会社は、どのようにして社会に役立っているのかについて説明することができる。
13	民間企業活動の意義と公的機関の役割	グローバルビジネス、地域ビジネス、公共政策の視点における民間企業活動の意義と公的機関の役割について検討する。
14	現代社会におけるビジネスの意味	現代社会においてビジネスのあり方は、経済的な利益の追求のみならず、国際社会、地域社会に貢献するものでなければならないことについて認識することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を生かし、今後の現代社会におけるビジネスの意義について理解できる。

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	経済学入門	科目ナンバリング	BIIL11002
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

この講義では、現代経済のあり方を理解するとともに、今後の本格的な経済学への導入となるような基本的な概念や基礎知識を概説する。前半で、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本概念を学んだあと、後半では現代経済の動きを掴むための種々の指標や歴史的背景について講義していく。

《授業の到達目標》

経済学の基礎的知識・概念を身につけるとともに、日々の経済ニュースに出てくるキーワードを理解する。

《テキスト》

なし(講義の中で、資料を配布する)

《参考図書》

篠原総一, 野間敏克, 入谷純(1999)『初歩から学ぶ経済入門 -- 経済学の考え方』  
 マンキュー(2014)『入門経済学(第2版)』東洋経済新報社  
 高本茂『初歩の経済学』(幻冬舎ルネッサンス)

《授業時間外学習》

日々のニュースに意識して触れ、講義で学んだこととの関連を考えよう。

《成績評価の方法》

毎回の小テスト(30%)＋期末テスト(70%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	経済学とは何かについて説明することができる。
2	国民経済の仕組み	市場の概念について説明し、その相互のつながりによって経済が成り立っていることを説明することができる。
3	市場メカニズム①	市場において、価格と取引量がどのように決まるのか、どのような要因が市場に影響を与えるのかを説明することができる。
4	市場メカニズム②	需要曲線と供給曲線の背後にある考え方について説明することができる。
5	市場メカニズム③	市場メカニズムがうまく働かない場合があり、そこに政府の役割があることを説明することができる。
6	マクロ経済指標①	GDPをめぐる諸概念について説明することができる。
7	マクロ経済指標②	一国の経済循環図において、GDPが他のマクロ指標とどのように関係しているのかを説明することができる。
8	マクロ経済指標③	為替レートがどのようにして決まるのか、また為替レートの変化が一国経済に与える影響について説明することができる。
9	戦後日本経済の歩み①	経済成長の概念と、戦後の日本経済成長の実際についての講義を通し、戦後日本経済史を概観する。
10	戦後日本経済の歩み②	国際金融市場の変遷と、それが日本経済に与えた影響について説明することができる。
11	戦後日本経済の歩み③	日本の財政、特に社会保障制度の経緯について、概略を説明することができる。
12	戦後日本経済の歩み④	景気対策の効果と、日本の財政の現状について、概略を説明することができる。
13	戦後日本経済の歩み⑤	金融システムの概略を理解し、バブル前後の経緯について、概略を説明することができる。
14	戦後日本経済の歩み⑥	日本経済の現状と課題について、理解する。
15	まとめ	いままでの学習内容を整理する。

科目名	統計学の基礎		科目ナンバリング	BIIL11003	
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 論理的思考力 ◎ 2-4 情報処理能力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

ビジネスにおいて、統計手法を用いたデータ分析はますます重要性が高まっています。情報技術の進歩に伴って大量のデータ処理が可能になったこと、社会や経済が複雑化して直感だけでは意思決定が難しくなったことなどがその理由です。そのような背景を踏まえて、どのようなデータをどのように分析すれば意思決定に役立つかを考えるための基礎力を養成します。統計処理の手順ではなく考え方や使い方に重点を置きます。

《授業の到達目標》

(1) ビジネスにおける統計学（データ分析）の重要性を理解する。(2) 課題解決におけるデータ分析の使い方、分析から価値を得る方法を理解する。そのために、具体的なビジネスのシーンを設定し、仮説生成、データ収集、データ処理、仮説検証、意思決定などの流れに沿ってデータ分析の考え方、陥りやすい誤りを理解する。(3) 基本的なデータの入手方法、データの種類と特徴及びそれらに応じた統計手法の基礎を理解する。

《成績評価の方法》

平常点（毎回の課題）を40%、期末試験を60%の割合で評価します。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

毎回簡単な事前学習を宿題とします。それを行うことによって、授業の理解が高まります。また、期末試験に合格するためには、毎回の授業内容の復習が必要です。

《備考》

客観的なデータを用いて論理的に考え意思決定する態度を身に付けましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会における統計学	客観的なデータを用いた意思決定の重要性を豊富な具体事例を用いながら考察する。
2	統計学の歴史	統計学の歴史を振り返りながらその考え方の基礎を学ぶ。インターネットの普及による
3	課題解決におけるデータ分析の役割	課題解決の流れの中でのデータ分析の意味を学ぶ。
4	統計グラフと質的データの要約	度数分布表による要約、グラフの見方、クロス集計表を用いた実践例を学ぶ。
5	量的データの要約	度数分布表とヒストグラム、データのばらつきの表し方を学ぶ。
6	相関分析	ビジネスにおける相関関係の活用方法を学ぶ。
7	回帰分析	回帰分析を使った予測方法を学ぶ。
8	標本調査	標本調査の考え方を修得する。
9	経済統計	経済データの見方と活用事例を学ぶ。
10	時系列データ	時系列データの特徴、視覚的な表現の仕方を学ぶ。
11	アンケート調査	アンケート調査とその分析の考え方を修得する。
12	公的データ 1	公的データの種類と入手方法を学ぶ。
13	公的データ 2	公的データの分析事例を学んで活用方法を考える。
14	データの可視化	統計処理の結果を活かすための効果的な可視化方法を学ぶ。
15	まとめ	ここまでの学びをまとめ、ビジネスにおけるデータ分析の今後を考える。

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	数学基礎	科目ナンバリング	BIIL21004		
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

経済を学ぶために必要な数学の基礎を一から学び直します。関数、方程式と連立方程式、指数・対数、数列、微分、図形、統計、確率という分野におけるさまざまな基本概念を理解することに重点をおき、数学的な考え方を学ぶ科目として講義します。特に初学者にとって分かりづらいとされる分野を丁寧に解説します。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

方程式や関数といった自然科学における様々な手法や論理的な考え方を理解し、専門科目を学修する上での、また知的な生活を送るための基礎を修得します。

《授業時間外学習》

授業時間内のみでは練習量が不足しますので、家庭学習が前提となっています。出された課題は授業時間外に取り組んでください。

《成績評価の方法》

毎回の授業で行う確認テストと課題及び学期末に行う試験で評価します。評価点は、平常点（毎回の課題）を20%、期末試験を80%の割合とします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	正負の数と文字式	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
2	方程式の解き方	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
3	連立方程式の解き方	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
4	式の計算	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
5	因数分解	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
6	平方根	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
7	2次方程式	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
8	振り返り	ここまでの学習内容の確認
9	比例・反比例、一次関数のグラフ	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
10	2次関数のグラフ	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
11	指数・対数	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
12	振り返り	ここまでの学習内容の確認
13	図形の性質と証明	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
14	確率	概念と計算方法を復習し、具体的な例を使って定着を図る。
15	まとめ	学習内容の確認

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	経済学のための数学		科目ナンバリング	BIIL21005	
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 2-1 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

「数学基礎」で学んだ数学の概念が、経済学でどのように使われているかを学んでいきます。経済学の背景にある数字や数学に注目することにより経済を読み解くコツを学びます。経済に関する具体的なテーマを「生活」、「会社」、「日本」、「世界」の4つの視点から読み解きます。数学が経済学でどのように用いられるかをイメージできるような内容です。

《授業の到達目標》

ミクロ経済学・マクロ経済学を学ぶために必要な数学の基礎を身に付けることを目指します。また、論理的思考能力の向上も狙います。

《成績評価の方法》

毎回の授業で行う確認テストと課題及び学期末に行う試験で評価します。評価点は、平常点（毎回の課題）を40%、期末試験を60%の割合とします。ただし、課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提条件となります。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

毎回簡単な事前学習を宿題とします。それを行うことによって、授業の理解が高まります。また、期末試験に合格するためには、毎回の授業内容の復習が必要です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活の経済を数学で考える(1)	「需要と供給」グラフの仕組み, ユニクロの安さの理由など
2	生活の経済を数学で考える(2)	ネットビジネスの仕組み, 電気料金の仕組みなど
3	生活の経済を数学で考える(3)	少子化が進む理由, 増税の影響など
4	生活の経済を数学で考える(4)	資産運用に欠かせない基本数式, 株価の見方など
5	振り返り	ここまでの内容の復習と補足
6	会社の経済を数学で考える(1)	企業の基本数式, 企業行動を読み解く数字など
7	会社の経済を数学で考える(2)	損得計算書と貸借対照表の数式
8	会社の経済を数学で考える(3)	収益の読み取り方
9	振り返り	ここまでの内容の復習と補足
10	日本の経済を数学で考える(1)	GDPの読み解き方, 国の借金など
11	日本の経済を数学で考える(2)	失業率, 国民の負担の計算など
12	振り返り	ここまでの内容の復習と補足
13	世界の経済を数学で考える(1)	自由貿易のメリット, 国際収支など
14	世界の経済を数学で考える(2)	為替相場のカギ, 温暖化の取り組みの計算など
15	学習のまとめ	改めて経済を読み解く上での数学の役割を考える



科目名	ビジネス英語入門		科目ナンバリング	BIIS21006	
担当者氏名	廣間 準一、笹平 康弘				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力			

《授業の概要》

人と人とのコミュニケーションは、私たちの日常生活の基盤を支えるものであり、ビジネスの場でも不可欠である。この授業では、高校までの学習内容を復習しながら英語の基礎固めを行うとともに、さまざまなシーンで活用できる基礎的な英語表現をグループで互いの意見を交換する活動を通して学ぶ。具体的には、あいさつ、自己紹介、趣味の話、家族、買い物など日常的な話題を想定して英語コミュニケーション力の向上を目指す。

《テキスト》

『Inspire 1』 Nancy Douglas, Andrew Boon 著 センゲージ・ラーニング出版

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

- 自己紹介、助言、依頼、意見を述べるなどを、基本的な表現を使って実践することができる。
- 高校レベルの日常よく使われる語彙、文法、表現を理解し、使うことができる。
- 発音、イントネーションなど、英語の音声の特徴を理解し話すときに応用することができる。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：毎回予習シートを配布するので、授業時までに記入し、分からない部分は、辞書、参考書などで調べておくこと。(2) 復習の方法：授業内容を再確認し、モデル会話、表現など授業で練習した内容をスラスラロに出るまで練習する。

《成績評価の方法》

(1) 授業内ペア・グループワークへの参加とその成果20% (参加意識および協力度における自己・他己評価と作業シートの記入内容によって評価する) (2) レッスン20% (会話のロールプレイ、個人発表等の内容を評価する) (3) 英語面接20% (4) 定期試験40% (試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Identity	自己紹介の方法を学び、自分について語る事ができる。また、アメリカの多様な移民について理解を深める。
2	Sports	スポーツの好みについて語る事ができる。また、世界の珍しいスポーツ(モンゴルの競馬)について理解を深める。
3	Review 1	第1回と第2回の授業のテーマから一つ選び発表することができる。
4	The Night	夕方のアクティビティについて語る事ができる。「夢遊病」の不思議について理解を深める。
5	Fashion	ファッションについて語る事ができる。タイの特異なファッションについて理解を深める。
6	Review 2	第4回と第5回のテーマから一つ選び発表することができる。
7	Homes	自分の住居に着いて語る事ができる。環境に優しい家屋について理解を深める。
8	Buying and Selling	買い物で使われる表現を学び使う事ができる。モロッコの有名な市場について理解を深める。
9	Review 3	第7回と第8回のテーマから一つ選び発表することができる。
10	Weather	天気について語る事ができる。ヨーロッパの“Heatwave”について理解を深める。
11	Mysteries	世界の不思議について語る事ができる。恐竜の絶滅の原因について理解を深める。
12	Review 4	第10回と第11回のテーマから一つ選び発表することができる。
13	Education	留学に必要な力について語る事ができる。南アフリカの教育について理解を深める。
14	Water	水の大切さについて語る事ができる。世界の水資源について理解を深める。
15	発表・面接	これまでの学習で得られた成果を英語で発表し、質問に答えることができる。

科目名	ビジネス英語 I	科目ナンバリング	BIIS21007
担当者氏名	廣間 準一、笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力		

《授業の概要》

ビジネス現場での連絡や問い合わせ、応答に活用できる基礎的な英語表現を学ぶ。具体的には、初対面時のあいさつ、電話対応、用件の連絡、仕事の依頼、商品の注文、問い合わせに対する応答、イベントへの招待とその返答、Eメールの書き方など、実際のビジネスシーンを想定した演習により、オーラル・コミュニケーション、ライティングスキルを身につける。また、日本と英語圏におけるコミュニケーションスタイルの違いを理解したコミュニケーションのあり方も学ぶ。

《授業の到達目標》

- 自己紹介、電話対応、会社案内、ホテルのチェックイン等のビジネス現場における基礎的なコミュニケーションができる。
- 日本と英語圏(特に、英米)におけるコミュニケーション・スタイルの違いを理解および意識したコミュニケーションができる。
- 基礎的な英語表現を使用した積極的な「発信型」コミュニケーションができる。

《成績評価の方法》

(1) 授業内ペア・グループワークへの参加とその成果20%(参加意識および協力度における自己・他己評価と作業シートの記入内容によって評価する) (2) プレゼンテーション20%(会話のロールプレイ、個人発表等の内容を評価する) (3) 英語面接20%(4) 定期試験40%(試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介」の場面で使われる表現を理解し、使うことができる。また、英語の名刺の構成を理解し、各自作成した英語の名刺を使った自己紹介ができる。
2	Clarifying Meanings	“FYI”、“ASAP”等、分からない略語、単語の意味を英語で確認する英語表現をペア・グループ作業を通して学び、使うことができる。
3	Phone Conversation (1)	ビジネスの現場での「電話対応」の場面で使われる表現を理解し、使うことができる。
4	Phone Conversation (2)	第3回の授業をさらに発展させる。伝言の取り方を理解し、使うことができる。
5	Calling in Sick	健康状態に関する表現を、「病欠の電話のかけ方」、「健康」などをテーマとした会話練習を通して、理解し、使うことができる。
6	Appointments	「顧客との約束」、スケジュール管理に関する表現を理解し、使うことができる。
7	Making Offers	訪問者を案内したり、飲み物などを提供したりする際の表現を理解し、使うことができる。
8	Invitation	食事や催し物などへの誘い方、誘われた時の対応に関する表現を理解し、使うことができる。
9	Small Talk	英語特有のスマールトークで使われる表現および話題を理解し、会話を楽しむことができる。
10	Location	位置や場所を尋ねたり、説明したりするときの表現を理解し、使うことができる。
11	Directions	道順を尋ねたり、説明したりするときの表現を理解し、使うことができる。
12	Instructions	道順を尋ねたり、説明したりするときの表現を理解し、使うことができる。
13	Checking in at a Hotel	ホテルでのチェックインの際に使われる表現を理解し、使うことができる。
14	Eating out	レストランでの会話や支払い方法に関する表現を理解し、使うことができる。
15	発表・面接	これまでの学習で得られた成果を英語で発表し、質問に答えることができる。

《テキスト》

『First Steps to Office English』Tae Kudo著、センゲージ・ラーニング出版

《参考図書》

特になし

《授業時間外学習》

1) 予習の方法：毎回予習シートを配布するので、授業時までに入力し、分からない部分は、辞書、参考書などで調べておくこと。  
 2) 復習の方法：授業内容を再確認し、モデル会話、表現など授業で練習した内容をスラスラロに出るまで練習する。

《備考》

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	現代経済社会	科目ナンバリング	BIIS21008
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

日々のニュースからもうかがえるように、今日の日本経済・社会は、グローバル化や少子高齢化などを背景にさまざまな課題や問題に直面している。この授業では、戦後の日本経済のあゆみを振り返り、現実経済を読み解く経済学の基礎的概念も学びながら、グローバル化と日本経済、雇用問題、ICT革命とビジネスなど、今日注目を集めているいくつかのトピックを取り上げ、経済・社会問題について考察する。

《授業の到達目標》

- ・現実の経済・社会問題に関心をもち、自らすすんで考察できるようになる。
- ・一面的な見方に偏らず、異なる見解も踏まえて考える力を身につける。
- ・経済学考え方を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業への参加の姿勢、課題への取り組み、レポートなど）と学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点50%、学期末の筆記試験50%とする。

《テキスト》

特に指定しない。  
適宜プリントを配布する。

《参考図書》

伊藤元重著『日本と世界の「流れ」を読む経済学』PHPビジネス新書、2012年。  
鈴木良介著『ビッグデータ・ビジネス』日経文庫、2012年。  
その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業で取り上げたトピックについてより考察を深めるように、課題を出す予定である。日ごろからニュースや新聞記事に目を通し、経済・社会の動きを知る習慣を身につけよう。
- ・第11週目を終わったところに、学期末のテストにむけて、授業内容を復習・確認するための教材を配布する。授業内容を理解できているか、振り返ってみよう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要	授業の概要、目標、受講上の注意事項について説明する。
2	戦後日本経済のあゆみ	経済成長の実績、経済発展によって生じた産業構造や社会の変化などについて概観する。さらに、今日私たちが直面している経済・社会問題について概観する。
3	雇用問題(1)	日本的経営の特徴、日本的経営を見直す動き、成果主義の導入とこれらに関連する問題について考察する。
4	雇用問題(2)	現在の日本が抱える雇用問題について考察する。諸外国の雇用制度や、限定正社員制度など新しい雇用制度についても考察する。
5	少子高齢社会の到来(1)	財政問題、社会保障制度に関わる問題について考察する。
6	少子高齢社会の到来(2)	少子高齢時代のビジネス、経済成長を維持するため課題について考察する。
7	グローバル化(1)	貿易の利益について理解し、自由貿易と保護貿易をめぐる論争について考察する。
8	グローバル化(2)	TPP、FTA、RCEPなど、昨今の自由貿易を推進する動きと日本経済・社会への影響について考察する。
9	グローバル化(3)	農業・食糧問題について考える。
10	I C T 革命(1)	I C T 革命の特徴、経済・ビジネスに及ぼした影響について考察する。
11	I C T 革命(2)	I C T を生かしたビジネスについて考察する。
12	I C T 革命(3)	経済・社会におけるビッグデータの活用について考える。
13	地球環境問題(1)	地球温暖化問題と、日本や世界各国の取り組みについて考察する。
14	地球環境問題(2)	資源エネルギー問題について考える。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を振り返る。

科目名	国際関係論	科目ナンバリング	BIIS21009		
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力				

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

○自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。  
 ○20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ—世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	社会調査の基礎	科目ナンバリング	BIIS21010
担当者氏名	田端 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 2-2 論理的思考力</li> <li>◎ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>		

《授業の概要》

社会調査の意義と特に社会課題への取組などについての歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法、その分析の方法を学びます。個人情報保護など、社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』（第3版）中央法規

《参考図書》

授業内で指示します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察など社会調査の手法を身に付けることができます。公表された統計表、アンケート調査の結果、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し地域社会における総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。宿題を課すことがありますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80％）。このほかレポートの提出状況などの授業に臨む態度も評価に含めます（20％）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／社会科学と社会調査	社会福祉分野で社会調査が必要な背景や社会科学と社会調査、社会福祉の関係を学びます。
2	社会調査の歴史①	イギリスのブースの貧困調査など社会調査の歴史とその役割を振り返り社会福祉での位置づけを理解します。
3	社会調査の歴史②	シカゴ学派による社会調査やフィッシャーによる推計学の導入、優生学につながる悲劇など、社会調査を取り巻く近代の歴史を理解します。
4	統計法と統計制度	国家と統計の関係から、民主的な公的統計のあり方を学びます。日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的調査と質的調査	公的統計調査やアンケート調査など量的調査と観察など質的調査の違い、また横断的調査、縦断的調査など調査の考え方の基本を学びます。
6	母集団と標本集団	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査の方法①	調査の設計と調査目的の明確化、正確な調査を行うためのワーディングなどを学び、アンケート調査を作成するための基礎的な内容を理解します。
8	アンケート調査の方法②	調査票の配布回収方法など、実際にアンケート調査を行う場合に注意すべき点などについて把握します。
9	量的調査のデータ解析①	尺度水準などデータ分析の基本と1変量、2変量、多変量での分析方法の違いを踏まえ、1変量の場合の記述統計、単純集計などの分析手法を学びます。
10	量的調査のデータ解析②	引き続き、1変量での分析方法を学ぶとともに、2変量での分析方法である、回帰分析、相関分析について学びます。
11	量的調査のデータ解析③	重回帰分析など、多変量解析の解説を行うほか、仮説検定の基本を学び、その概念を理解します。
12	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて学びます。インタビューの記述方法について学びます。
13	観察の方法／質的調査のデータ解析①	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。質的データ調査の分析方法として、グランデットセオリーの考え方を学びます。
14	質的調査のデータ解析②	引き続き、グランデットセオリーの考え方を学び、またKJ法などについても学びます。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について学びます。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	BTAL41001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、公務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史的変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
- ②提出物 30%
- ③定期試験 50%（持ち込み不可）

《テキスト》

東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012

《参考図書》

石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』昭和堂、2008年。  
『新任教師のしごと 中学校・高校版』小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。
2	さまざまな教職観とその歴史的変遷	・教職観の歴史的変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。
5	教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。
6	教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。
7	教員の職務③：保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。
8	教員の職務④：アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。
9	教員の人事管理①：服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。
10	教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。
11	教員の人事管理③：教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	BTAL41002
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

広い視野をもって教育を俯瞰する授業である。ポイントは、(1)人間とは何かを考える、(2)世界教育史に学ぶ、(3)日本の教育の流れを押さえ、これから教師になる者の歴史的位置づけを考える、(4)人権教育の概略を知る、(5)「総合的な学習」を検討しつつ、未来の教育の展望を探る、の諸点である。

《テキスト》

とくには定めず、授業中にプリントを配布する。

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析できることを目指す。

《授業時間外学習》

本授業の理解を深めるのに有効であると判断される場合には、休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。

《成績評価の方法》

授業への参加度40%、レポート60%。ただし教育学のイロハであるが、受講生の様子等によりこれを変更することがある。下記授業計画も同じである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育に関する問題意識の出し合い
2	人間とは何かを考える(1)	視聴覚教材鑑賞(前半)
3	人間とは何かを考える(2)	視聴覚教材鑑賞(後半)
4	人間とは何かを考える(3)	ディスカッション
5	世界教育史に学ぶ(1)	筋が通った教育者とは—ペスタロッチが問いかけるもの—
6	世界教育史に学ぶ(2)	教育は時代を反映するもの—モントリオール・システムを考える—
7	特別授業	教育についての集団討論
8	日本教育史に学ぶ(1)	イロハから帝王学まで—手習塾(寺子屋)は近世のフリースクールだった—
9	日本教育史に学ぶ(2)	水道方式—「下から」の教育内容現代化—
10	日本教育史に学ぶ(3)	ゆがんだ能力主義—「上から」の教育内容現代化—
11	日本教育史に学ぶ(4)	ゆれ動く学校教育—経済審議会答申から現在まで—
12	人権教育を考える(1)	差別・被差別からの解放をめざす教育
13	人権教育を考える(2)	同和教育から人権教育へ
14	未来の教育への展望	「総合的な学習」が問いかける、「自分で考える人間」づくり
15	本授業の総括	教育とは明日の日本・世界をつくる営み

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	BTAL41004
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30％）、定期試験（70％）

《テキスト》

テキストは使用しない。  
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。  
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。



《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	BTAL41005
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育の「制度」（公教育制度、教育法制など）と「制度的実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、昨今の教育改革の動向を検討しながら、現代日本における教育の課題を、みずからの問題として論理的に考えていく力が身につくよう、授業を進める。

《テキスト》

『現代教育の制度と行政』河野和清編著、福村出版、2008

《参考図書》

『要説 教育制度 三訂版』森秀夫、学芸図書、2008  
『図解・表解 教育法規 新訂版』坂田仰、河内祥子、黒川雅子、教育開発研究所、2012

《授業の到達目標》

1. 現代日本の公教育制度、教育法制などについての主要な知識を獲得する。
2. 現代日本の教育がどのように制度的に運用されているかについて、その実態を理解する。
3. 現代日本における教育改革の動向を検討し、今後の課題について考える力を養う。

《授業時間外学習》

授業中、指示する。

《成績評価の方法》

1. 筆記試験の結果で100%評価する。
2. 筆記試験では、知識の定着度50%、文章作成能力（論理的思考力）50%の配点で、評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型
2	近代以降の日本教育制度（1）	昭和（戦前）期までの公教育制度、教育行政
3	近代以降の日本教育制度（2）	昭和（戦後）期の公教育制度、教育行政
4	現代日本の教育制度（1）	公教育制度（現状と課題）
5	現代日本の教育制度（2）	教育法制（現状と課題）
6	現代日本の教育制度（3）	教育行政（現状と課題）
7	現代日本の教育制度（4）	学校経営（現状と課題）
8	現代日本の教育制度（5）	教育課程（現状と課題）
9	現代日本の教育制度（6）	教職員人事（現状と課題）
10	現代日本の教育制度（7）	児童生徒の管理（現状と課題）
11	現代日本の教育制度（8）	教員養成・研修（現状と課題）
12	現代日本の教育改革（1）	教育改革の動向
13	現代日本の教育改革（2）	教育改革における今後の課題
14	海外主要国の学校制度	アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ等の学校制度
15	まとめ	学修内容の再確認

## 授業科目索引一覧（50音順）

授業科目の名称		ページ
<ア>	アプリケーションソフト	63
<エ>	英語	21～22
<カ>	化学	49
	韓国語（初級）	28～29
	韓国語（中級）	30～31
<キ>	キャンパスライフ入門	74
	教育原理	87
	教育心理学	88
	教育制度論	89
	教職概論	86
<ク>	グラフィックス	69
<ケ>	経済学	46
	経済学入門	77
	経済学のための数学	80
	芸術	37
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	52～53
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	54
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	55
	現代経済社会	81
	現代ビジネス入門	74
<コ>	国際関係論	84
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	33
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	34
	コンピュータ演習	32
<シ>	色彩とデザイン	38
	実用英語Ⅰ	23～25
	社会学	45
	社会調査の基礎	85
	修学基礎Ⅰ	75
	宗教と人生	18
	情報デザイン	67

授業科目の名称		ページ
<シ>	情報のための数学	68
	情報モラル	66
	食と健康	51
	人権の歴史	43
	心理学	48
<ス>	数学基礎	79
<セ>	政治学	44
	生物学	50
	生命倫理学	47
<チ>	地域文化論	39
	中国語（初級）	26
	中国語（中級）	27
<テ>	哲学	40
<ト>	統計学の基礎	78
<ニ>	日本語（読解と表現）	20
	日本国憲法	42
<ヒ>	比較文化論	34
	ビジネス英語Ⅰ	82
	ビジネス英語入門	81
	ビジネス実務総論	70
	秘書総論	71
<フ>	仏教と現代社会	19
	プレゼンテーション	62
	プロジェクト演習入門	72
	法と社会	41
<ホ>	簿記演習Ⅰ	64
	簿記演習Ⅱ	65
<レ>	歴史学	35
<ワ>	私のためのキャリア設計	56